

第5次高知市スポーツ推進計画

令和6年4月

高知市

第5次高知市スポーツ推進計画（目次）

第1章 高知市スポーツ推進計画の基本的な考え方	1
1 趣旨	1
2 計画の位置づけ	2
3 計画期間	2
4 本計画とSDGs	2
第2章 計画策定にあたっての高知市の現状と課題	3
1 「高知市民の健康・スポーツに関する意識調査」から見える現状	3
2 「高知市のスポーツ指導者に関する調査」から見えるスポーツの組織と指導者	19
3 第4次高知市スポーツ推進計画の総括的な評価	25
4 課題整理	33
第3章 推進計画の基本方針と策定の方向性	34
1 計画の基本方針	34
2 計画の目標	34
第4章 計画推進のための具体的施策	36
1 スポーツを「つくる／はぐくむ」	36
2 スポーツで「あつまり、ともに、つながる」	40
3 スポーツに「誰もがアクセスできる」	43
資料編	47
1 地区体育会一覧	47
2 高知市スポーツ少年団加入数・加入率推移	49
3 市内スポーツ施設一覧	51
4 高知市立学校体育施設開放一覧	56
5 高知県立障害者スポーツセンターの障害者の利用状況	57
6 第5次高知市スポーツ推進計画策定経過	57
7 高知市スポーツ推進審議会委員	58

第1章 高知市スポーツ推進計画の基本的な考え方

1 趣旨

スポーツは、心身の健全な発達や健康及び体力の保持増進に資するとともに、達成感や充足感などの精神的な充実や喜びを与えてくれます。また、人と人・地域と地域との交流を促し、地域の一体感や活力を生み出すなど、地域の活性化にも重要な役割を果たしており、地域社会の健全な発展に不可欠なものとなっています。

しかしながら、令和2年からの新型コロナウイルス感染症の拡大により、さまざまなスポーツ活動が中止・延期を余儀なくされ、スポーツに親しむ機会が大きく制限される時期が続きました。一方、令和3年夏には一年延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、多くの人々が、アスリートたちが全力で競技に挑む真摯な姿や、国を超え励ましたたえあう姿を見て、スポーツの持つ力を改めて認識することとなりました。その後も、行動様式や試合開催などにおいてさまざまな制約が設けられる困難な状況の中、それぞれが感染対策を徹底し創意工夫を凝らしながら、スポーツ活動を再開してきました。

本市では、地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本的な事項を定めた「2011高知市総合計画」（平成23年策定、計画期間：20年間）に基づき、基本構想の実現に向けて令和3年度から令和12年度までの10年間の施策を体系的に示す「後期基本計画」を策定しています。

この後期基本計画では、施策のひとつに「ライフステージに応じた生涯スポーツの推進」を掲げ、「スポーツ活動の推進」、「スポーツ指導者の育成」、「スポーツ施設の充実」を重点的な取組として設定し、現在各種事業に取り組んでいます。

また、本市では、今後の市民スポーツの振興を図るためには、地域に根差した取組や庁内他部署との連携がこれまで以上に必要との考えから、令和3年度に、スポーツ振興課を高知市教育委員会事務局から市長事務部局へ移管しました。

一方、国では令和4年3月に「第3期スポーツ基本計画」が策定され、東京オリンピック・パラリンピックのスポーツ・レガシーの継承・発展に資する施策を展開するとともに、近年の社会状況の変化に応じ、スポーツを「つくる／はぐくむ」、スポーツで「あつまり、ともに、つながる」、スポーツに「誰もがアクセスできる」という新たな3つの視点を支えるさまざまな施策を展開することとしています。

また、高知県では令和5年3月に「第3期高知県スポーツ推進計画」が新たに策定され、目指す姿として「スポーツの楽しさや感動を共有し希望と活力ある社会の実現」を掲げ、「誰もがスポーツの楽しさや感動を得られる環境づくり」と「スポーツを通じてすべての県民や地域を元気にする」という2つの基本理念のもと、「スポーツ参加の拡大」、「競技力の向上」、「スポーツを通じた活力ある県づくり」を施策の3本の柱に据え、近年の社会状況を踏まえた横断的な施策として「デジタル技術の活用」、「産学官民の連携によるスポーツを支える体制の充実」を設定し、さまざまな具体的施策を展開していくこととしています。

本市では、平成26年3月に平成26年度から令和5年度の10年間を計画期間とした「第4次高知市スポーツ推進計画」を策定し、市民一人ひとりがいつでも、どこでも、だれとでも、いつまでも安全にスポーツ活動に親しむことができる生涯スポーツ社会を実現するため、さまざまな施策に取り組んできました。しかしながら、計画期間の終期となる令和2年度以降は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、想定どおりに事業を展開できておらず、十分な成果を得ることができていない取組もあります。

本市では、これらのことを踏まえるとともに、社会状況の変化に合わせ、さまざまな世代がライフスタイルに応じて気軽にスポーツを楽しむことができる生涯スポーツを更に推進するため、「第5次高知市スポーツ推進計画」を策定します。

2 計画の位置づけ

本計画は、スポーツ基本法第10条第1項に規定されている「地方スポーツ推進計画」として、国の「第3期スポーツ基本計画」及び「第3期高知県スポーツ推進計画」を参酌した、本市のスポーツ推進に関する計画です。

また、本計画は、「2011 高知市総合計画」に示している「ライフステージに応じた生涯スポーツの推進」を、より具現化する計画として位置づけています。

3 計画期間

計画期間は、令和6年度（2024年度）から令和15年度（2033年度）までの10年間とします。

なお、中間年の令和10年度（2028年度）には進捗状況や社会状況を踏まえ、令和11年度（2029年度）からの5年間について、計画の見直しを行います。

4 本計画とSDGs

SDGsとは、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）の略で、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。

本計画では、SDGsの目指す目標とその方向性を同じくするものであり、計画の推進にあたっては、SDGsの視点を踏まえて取り組むこととします。



国連は、SDGsにおいて「スポーツは持続可能な開発における重要な鍵となるものである」と必要不可欠なものとしている。

SDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」では、運動とスポーツを行うことはアクティブなライフスタイルと精神的な安定をもたらす、それが健康問題を解決するとしている。

目標5「ジェンダー平等を実現しよう」では、スポーツを通して意識改革を進めていくこと、また目標13「気候変動に具体的な対策を」では、スポーツイベントを通じて、環境への理解を深めていくことができるとしている。

（出典：国際連合広報センター（UNIC）
「スポーツと持続可能な開発（SDGs）」、2016）

第2章 計画策定にあたっての高知市の現状と課題

1 「高知市民の健康・スポーツに関する意識調査」から見える現状

市民の健康・体力に関する意識，運動・スポーツ活動への参加状況，運動・スポーツ施設についての要望等を把握するため，市民を対象としたアンケート調査を行いました。

調査実施時期		令和5年9月		(前回)平成25年8月	
属性	回 答	回答者数	割合 (%)	回答者数	割合 (%)
性別	男性	373	38.5	494	46.9
	女性	591	60.9	557	52.8
	無回答	6	0.6	3	0.3
年齢	10代	9	0.9	24	2.3
	20代	85	8.8	165	15.7
	30代	168	17.3	248	23.5
	40代	225	23.2	208	19.7
	50代	280	28.9	191	18.1
	60代	120	12.4	138	13.1
	70代	72	7.4	70代以上 79	70代以上 7.5
	80代以上	11	1.1		
	無回答	—	—	1	0.1
合 計		970	100	1,054	100

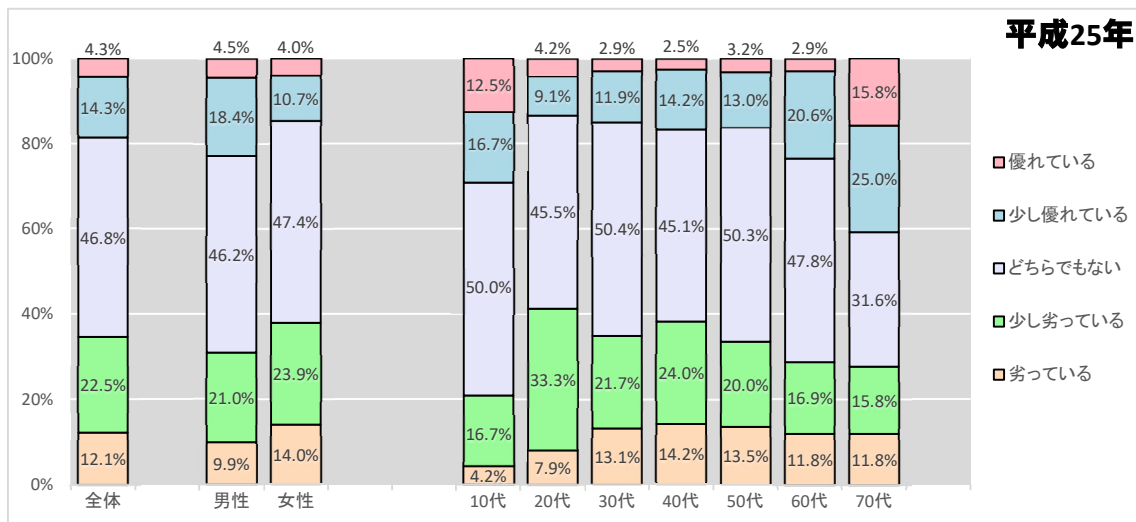
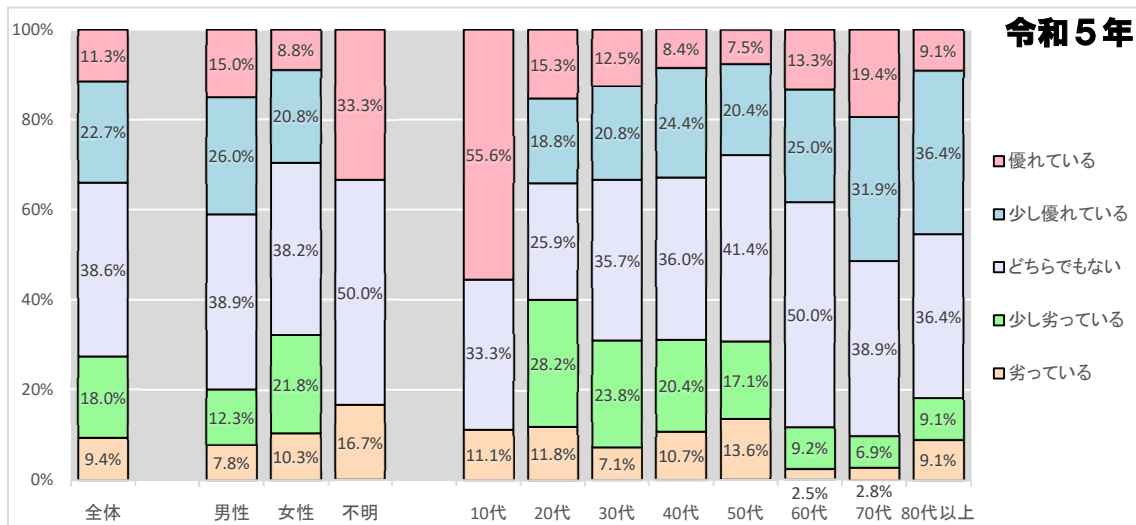
※ 割合 (%) は小数点第2位以下四捨五入

○ 健康に関する意識

同年齢・同性の人と比較した場合の健康状態の意識については、平成25年の前回調査時に7割近くを占めていた「どちらでもない」、「少し劣っている」と回答した方の割合が6割以下に減少、「優れている」、「少し優れている」と回答した方の割合がすべての年代で増加しており、自己の健康状態に対する意識は、前回調査時と比較すると高くなっています。

また、男性よりも女性において健康状態が低いと認識されている傾向は、前回調査時と同様となっています。

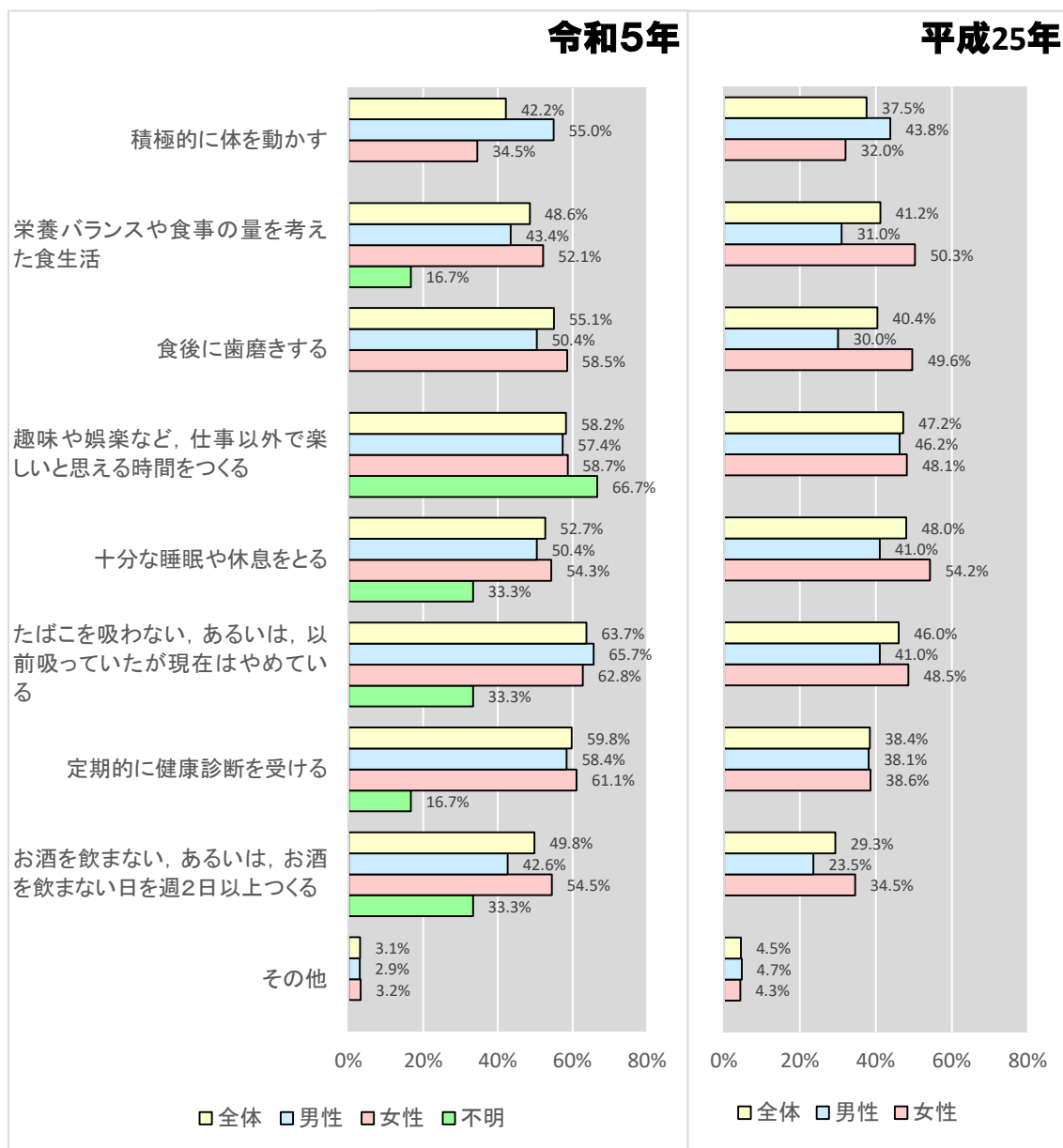
図1 健康状態に関する意識



また、健康づくりのための行動については、すべての項目について半数以上または半数近い方が実践していますが、女性では「積極的に体を動かす」と回答された方の割合が34.5%と前回調査時と比較し2.5ポイント増加したものの、男性と比較して20.5ポイント低い結果となっています。

「たばこを吸わない、あるいは、以前吸っていたが現在はやめている」と回答した方の割合は、前回調査時と比較して17ポイント余り増加、「定期的に健康診断を受ける」と回答した方の割合も21ポイント余り増加、「お酒を飲まない、あるいは、お酒を飲まない日を週2日以上つくる」と回答した方の割合も20ポイント余り増加しています。

図2 健康づくりのための行動



○ スポーツ参加に関する意識

文部科学省「スポーツ基本計画」では、成人（10代を除く）の週1回以上のスポーツ実施率が70%（障害者は40%）になること、年1回以上のスポーツ実施率が100%に近づくこと（障害者は70%程度になること）を目標にしています。

意識調査において、成人（10代を除く）の週1回以上スポーツをしたと回答した方の割合は48.2%であり、スポーツ基本計画における目標値を大幅に下回っています。

図3 週に1回以上のスポーツ実施頻度〈成人(10代を除く)〉

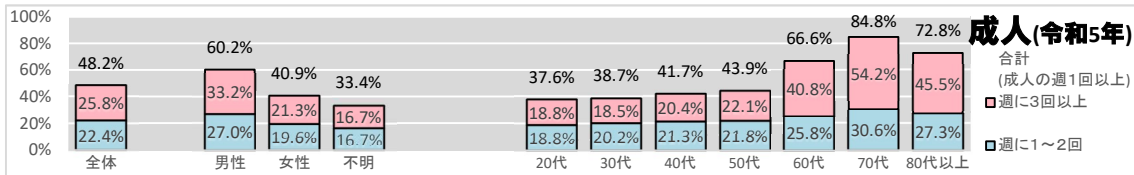
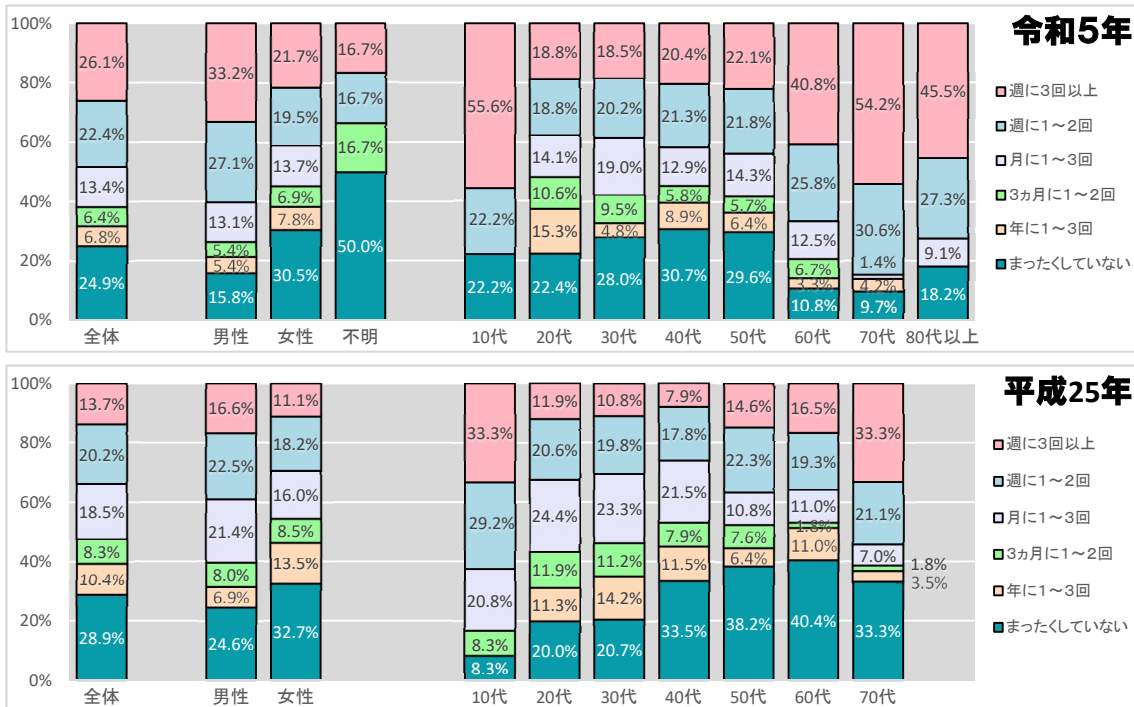
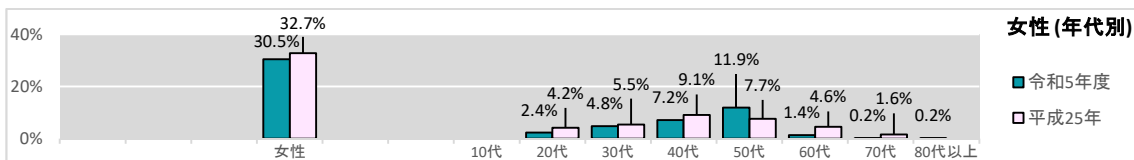


図4 この1年間のスポーツ実施頻度



1年間にスポーツを「まったくしていない」と回答した方の割合は24.9%と前回調査（28.9%）に比べて減少しており、女性の割合をみても50代のみ前回7.7%より4.2ポイント増加していますが、他の年代ではスポーツをする機会がそれぞれ増加していることがわかります。

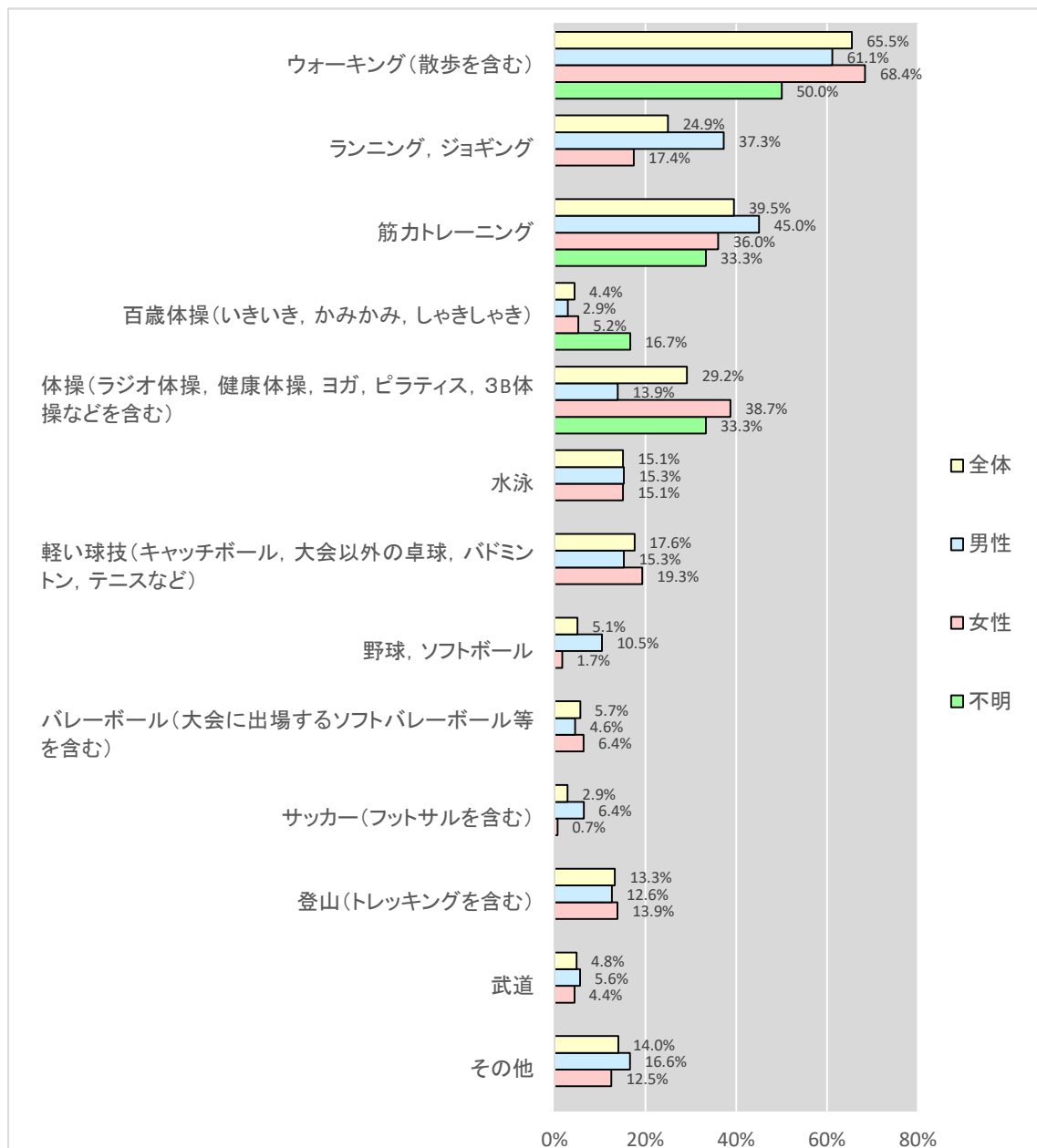
図5 この1年間スポーツを「まったくしていない」（女性の年代別）



「この1年間に行った運動・スポーツと、現在行っているものを含めて、将来やりたいと思う運動・スポーツ活動」については、「ウォーキング（散歩を含む）」と回答した方の割合が65.5%と最も多く、次いで「筋力トレーニング」39.5%、「体操（ラジオ体操，健康体操，ヨガ，ピラティス，3B体操などを含む）」29.2%の順に関心が高いことが分かりました。

男性と比較して，女性が実施している，あるいは実施を希望する種目として割合が高くなっているのは，「ウォーキング（散歩を含む）」68.4%，「体操（ラジオ体操，健康体操，ヨガ，ピラティス，3B体操などを含む）」38.7%，「軽い球技（キャッチボール，大会以外の卓球，バドミントン，テニスなど）」19.3%，「登山（トレッキングを含む）」13.9%などとなっています。

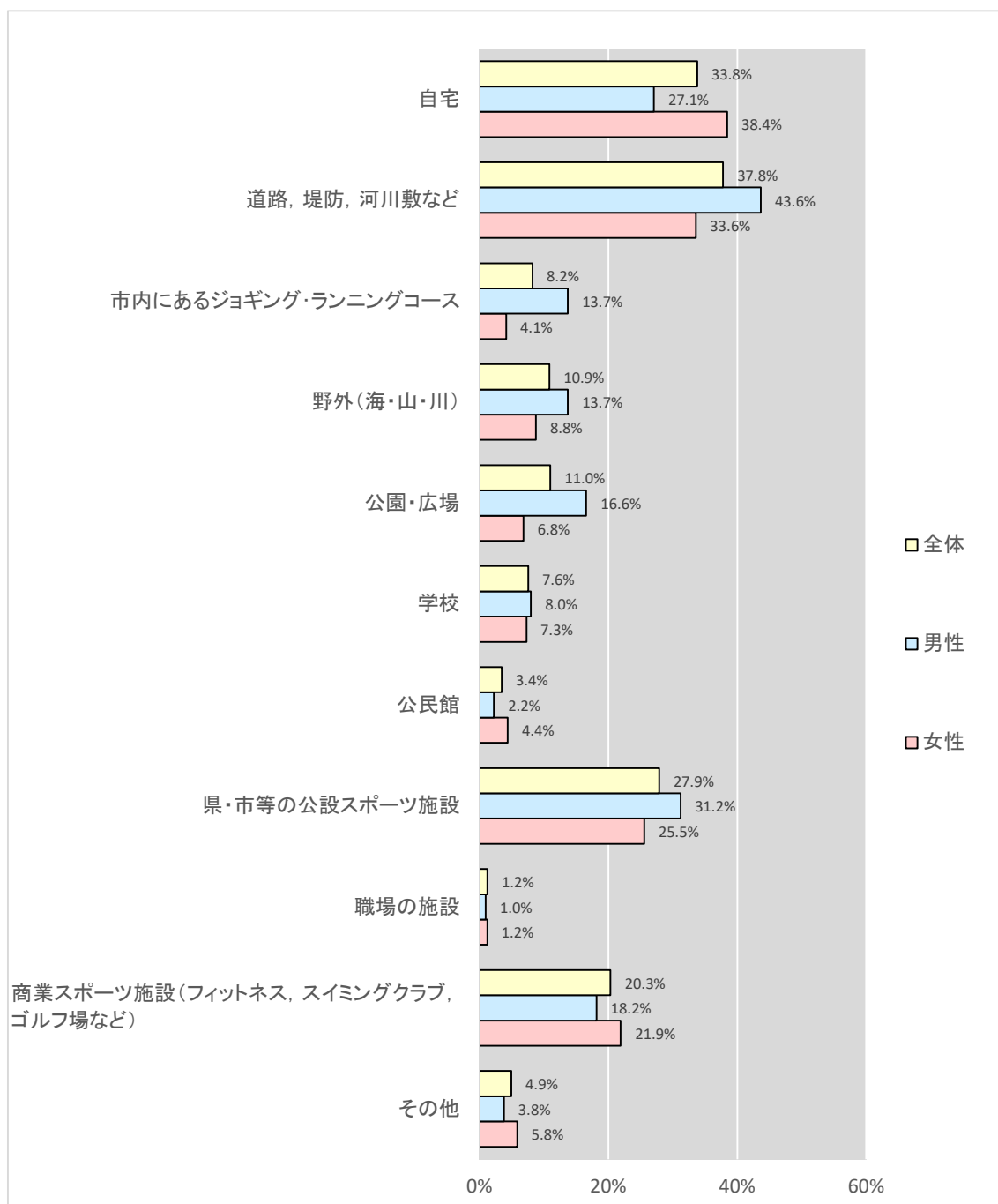
図6 実施を希望する運動・スポーツ活動



運動・スポーツの実施場所については、「道路、堤防、河川敷など」37.8%や「自宅」33.8%で活動していると回答した割合が高く、特に「自宅」と答えた女性（38.4%）の割合が男性（27.1%）よりも11.3ポイント高い回答となっています。

次いで、「県・市等の公設スポーツ施設」27.9%、「商業スポーツ施設（フィットネスクラブ、スイミングクラブ、ゴルフ場など）」20.3%の順となっています。

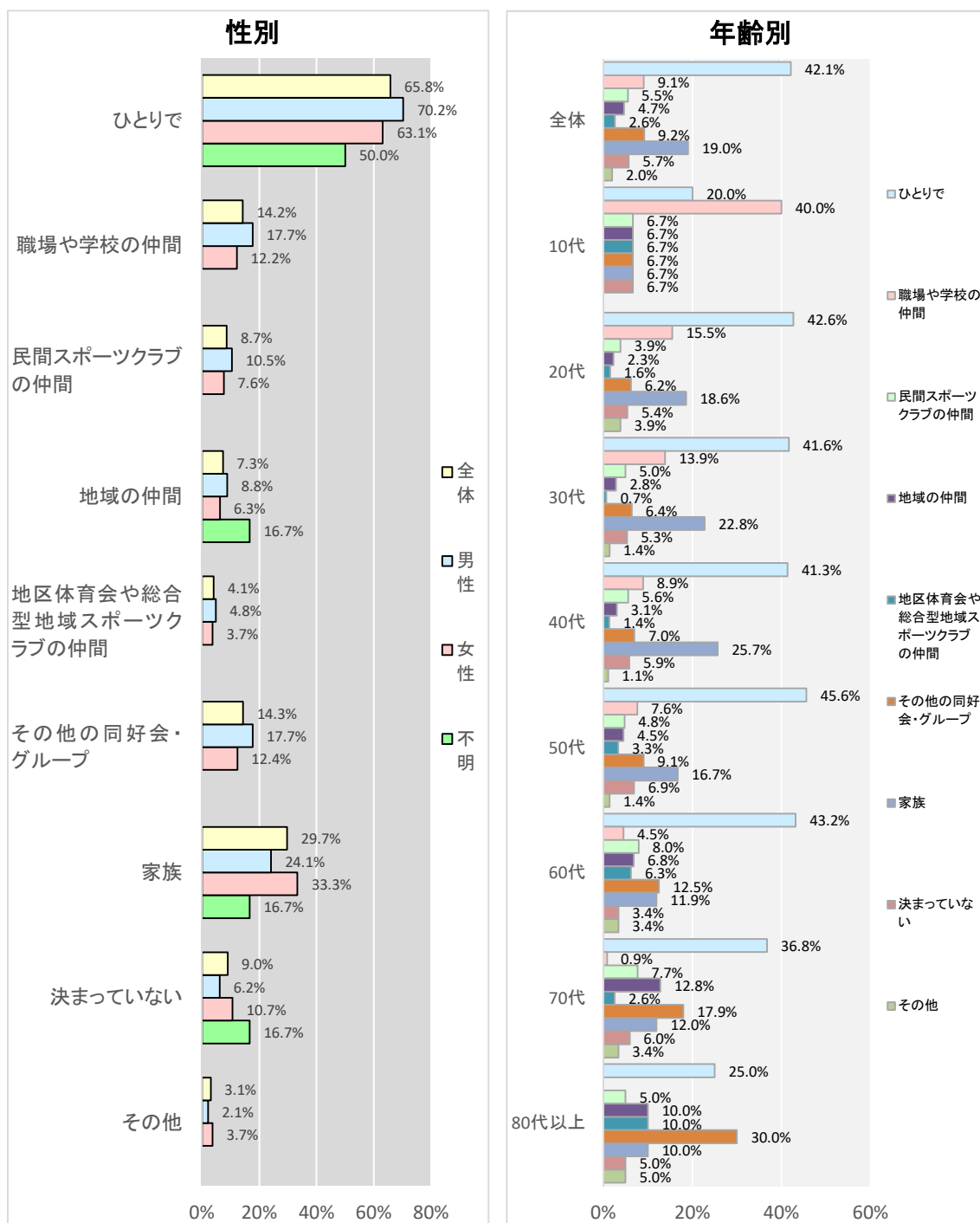
図7 運動・スポーツの実施場所



運動・スポーツをする相手については、「ひとりで」と回答した方の割合が 65.8%と最も多く、次いで「家族」と回答した方の割合が 29.7%、「その他の同好会・グループ」14.3%、「職場や学校の仲間」14.2%と続いています。

男女ともに、「ひとりで」と回答した割合が高く、他の年代と比較して 30 代・40 代は「家族」と運動・スポーツをする割合が高くなっていることがうかがえます。

図 8 運動・スポーツをする相手



○ 運動・スポーツに関する意識

運動・スポーツをする理由としては、「健康・体力づくり」と回答した方の割合が73.9%と最も多く、前回調査時よりも17.3ポイント増加しています。

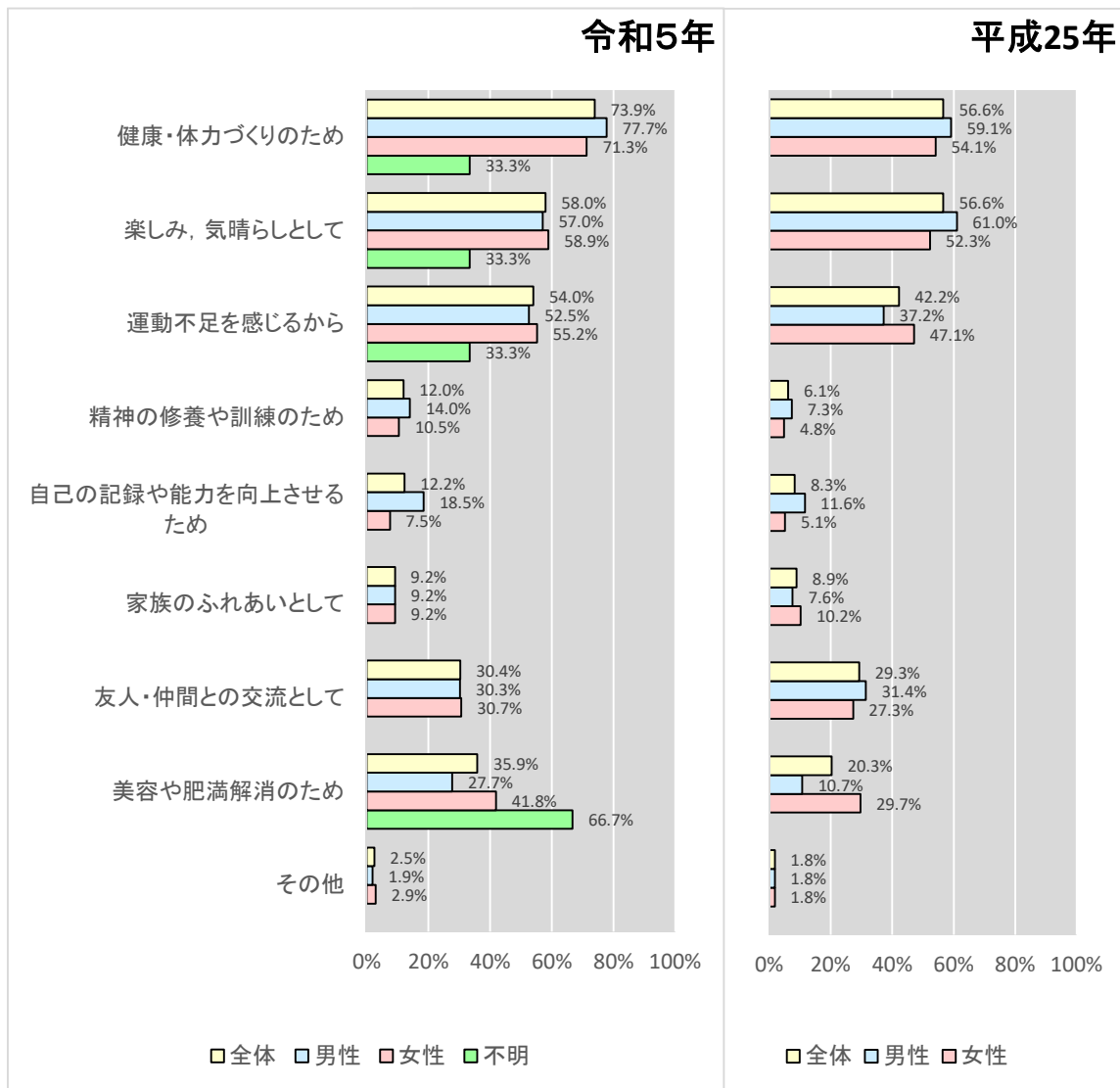
また、「楽しみ、気晴らし」、「運動不足解消」と回答した方の割合も50%以上となっています。

女性では、「美容・肥満解消」と回答した方の割合が41.8%となっており、運動・スポーツによる身体的効果や精神的効果を期待していることがうかがえます。

また、「友人・仲間との交流として」30.4%、「家族のふれあいとして」9.2%が順に続き、人とのつながりも求められているようです。

一方、「精神の修養や訓練のため」や「自己の記録や能力を向上させるため」と回答した方の割合は、前回調査時と比較して4ポイントから6ポイント増加しているものの、割合は低い結果となっています。

図9 運動・スポーツをする理由



運動・スポーツをしなかった理由については、「学業や仕事（家事・育児）が忙しくて時間がないから」と回答した方の割合が46.3%と最も多く、年代別にみると、30代40代の6割前後が「忙しい」と回答しています。

次いで「疲れてやる気がないから」と回答した方の割合が41.3%となっており、20代から50代までの4割以上が「疲れてやる気がないから」と回答しています。

図10 運動・スポーツをしなかった理由

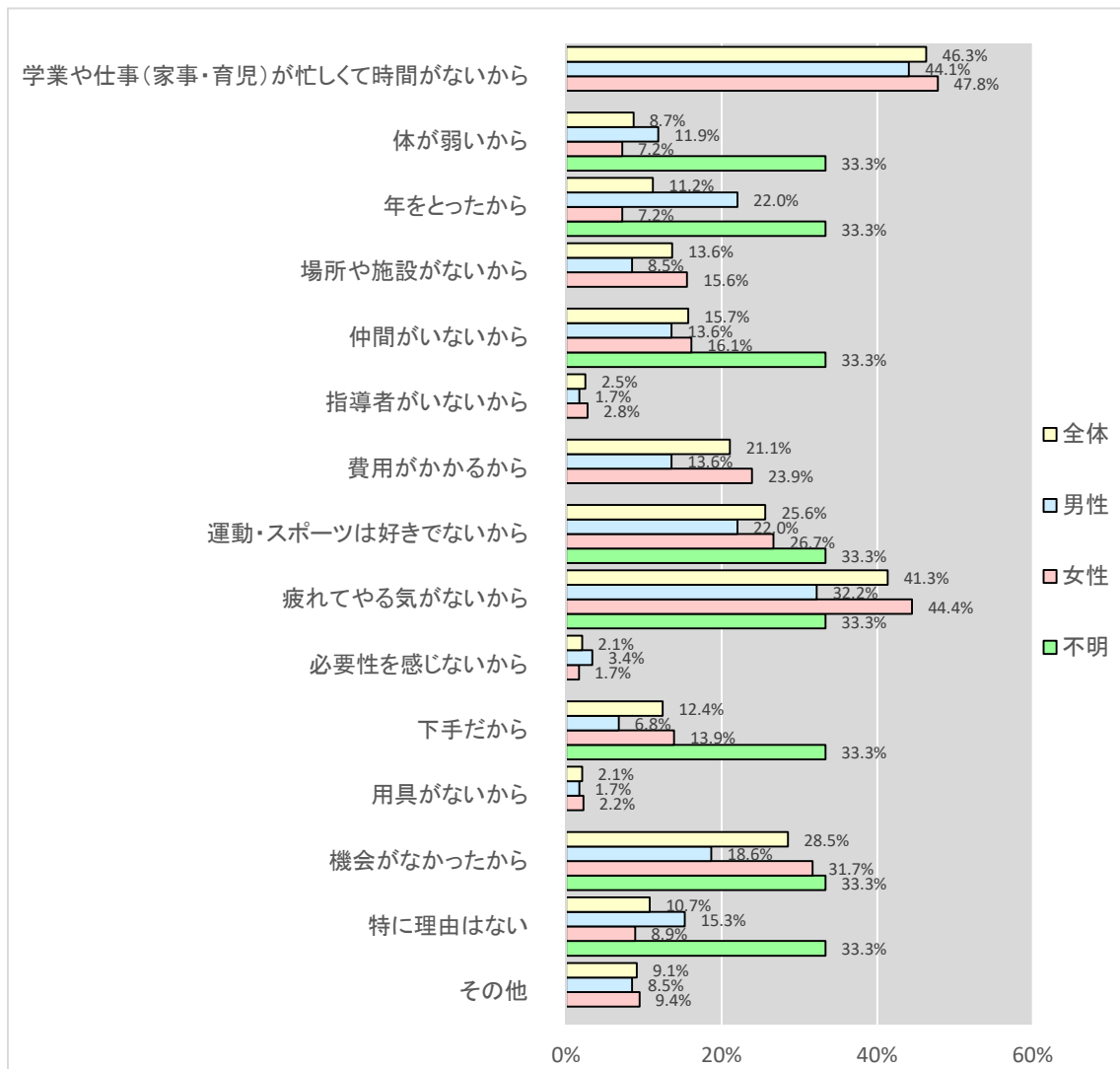


図11 運動・スポーツをしなかった（忙しい 年代別）

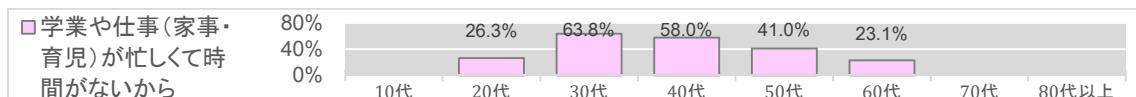
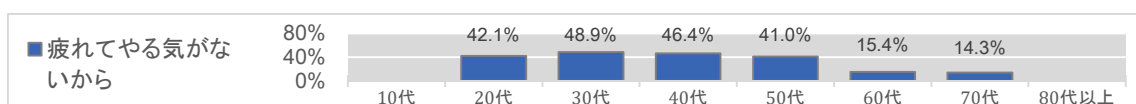


図12 運動・スポーツをしなかった（疲れている 年代別）

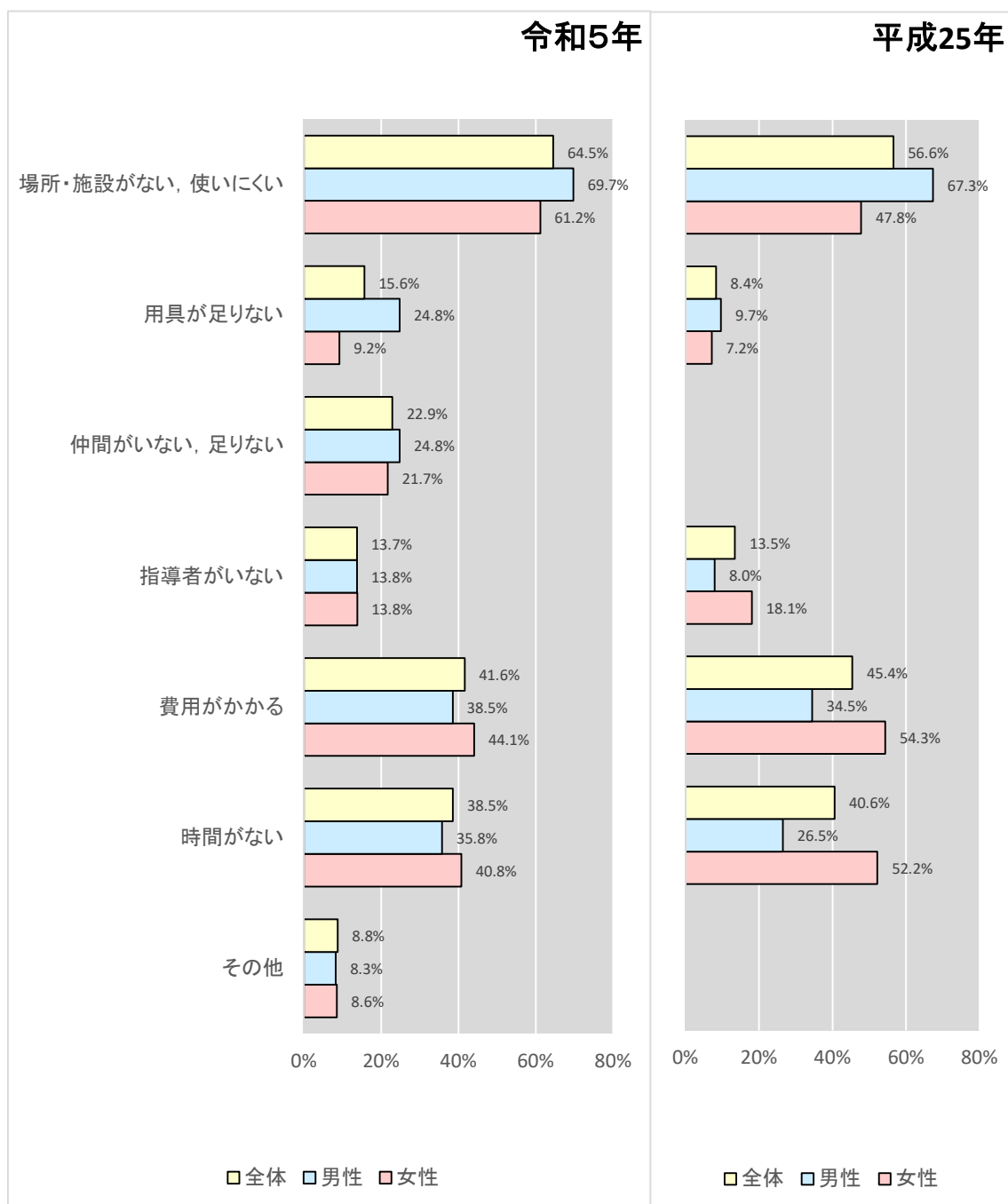


運動・スポーツを実施する際に不便を感じている点については、前回同様「場所・施設がない、使いにくい」と回答した方の割合が64.5%、「費用がかかるから」41.6%、「時間がない」38.5%といった順に高くなっています。

前回調査では、「指導者がいない」、「費用がかかる」、「時間がない」については女性の割合が男性を大幅に上回っていましたが、それぞれ割合が低下して男女の差も縮小しています。

一方、「場所・施設がない、使いにくい」、「用具が足りない」と回答した方の割合が増加しています。

図 13 運動・スポーツを実施する際に不便を感じている点

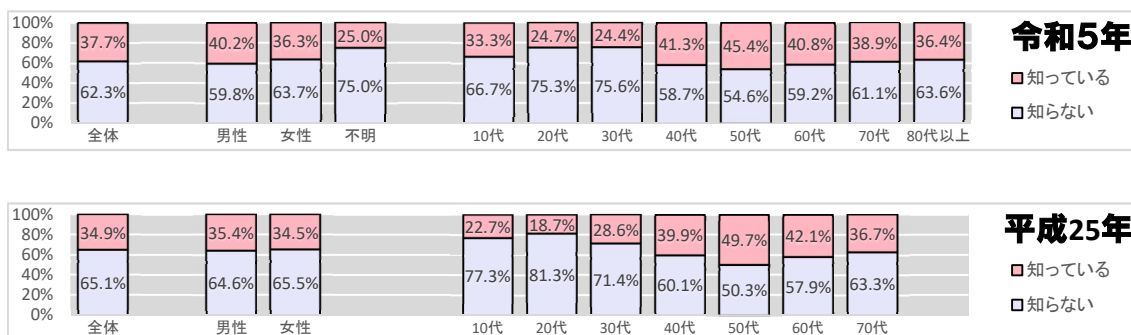


○ 地区体育会や地域の運動・スポーツ行事に関する意識

市民の主体的な地域スポーツ活動を担っている地区体育会に関して、「知らない」と回答した方の割合が6割を超えており、前回調査時と同水準となっています。

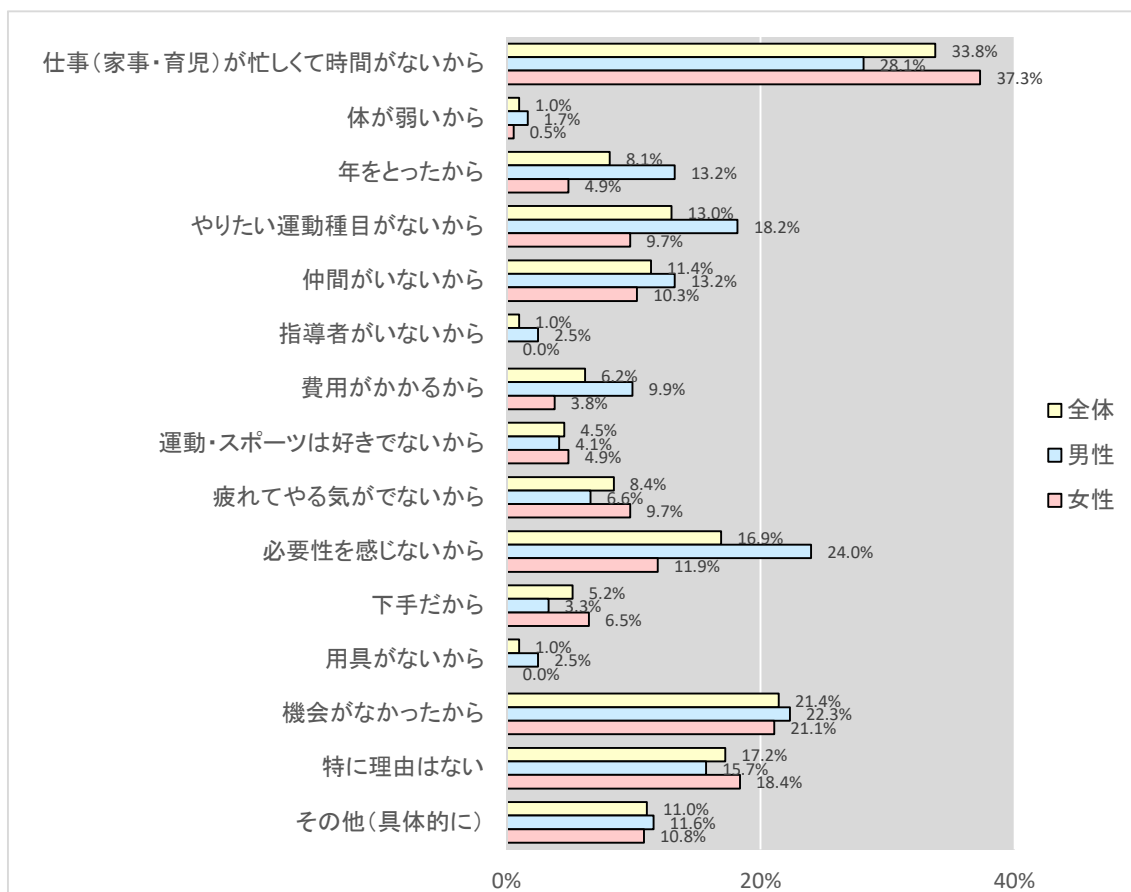
「知っている」と回答した方の割合が一番多い50代でも5割に満たず、特に20代、30代の若い世代では7割以上が「知らない」と答えています。

図14 「地区体育会」を知っているか



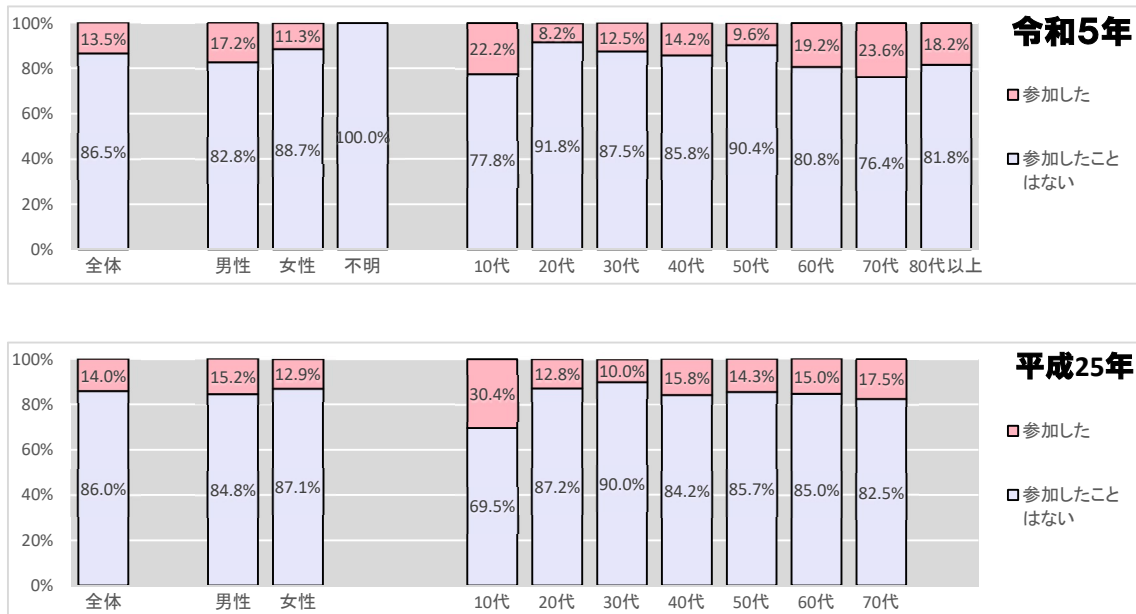
地区体育会に入会していない理由では、「忙しくて時間がないから」と回答した方の割合が、33.8%が最も多い一方で、「機会がなかったから」21.4%、「特に理由はない」17.2%、「必要性を感じないから」16.9%の順となっており、地区体育会の趣旨や活動内容に関する積極的な広報や加入の働きかけを行っていく必要があります。

図15 地区体育会に入会していない理由



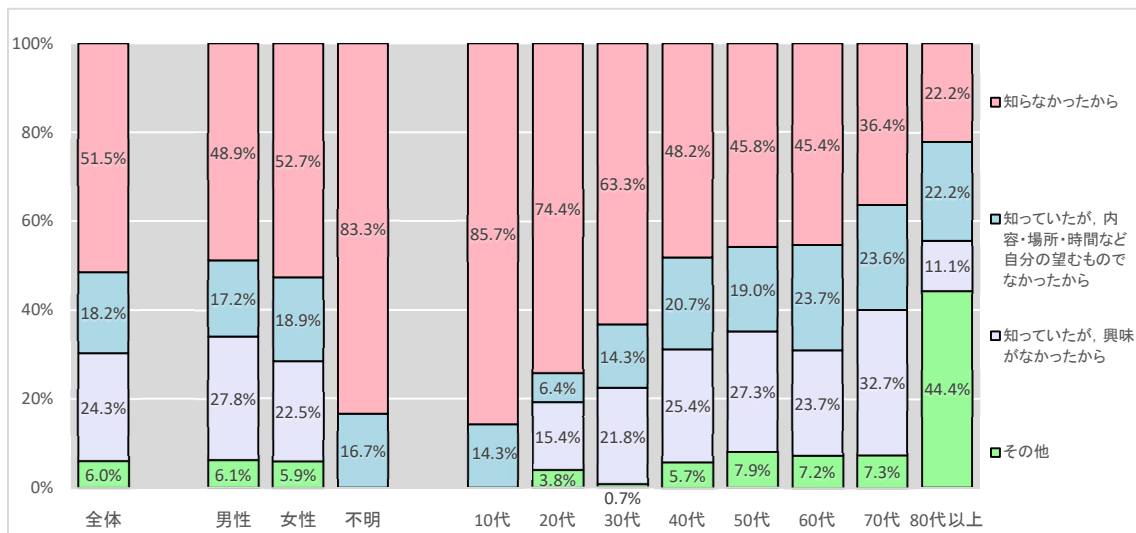
この1年間に地域の運動・スポーツ行事に参加した市民は13.5%と前回調査14.0%と同水準となっています。

図16 地域の運動・スポーツ行事に参加したことはあるか



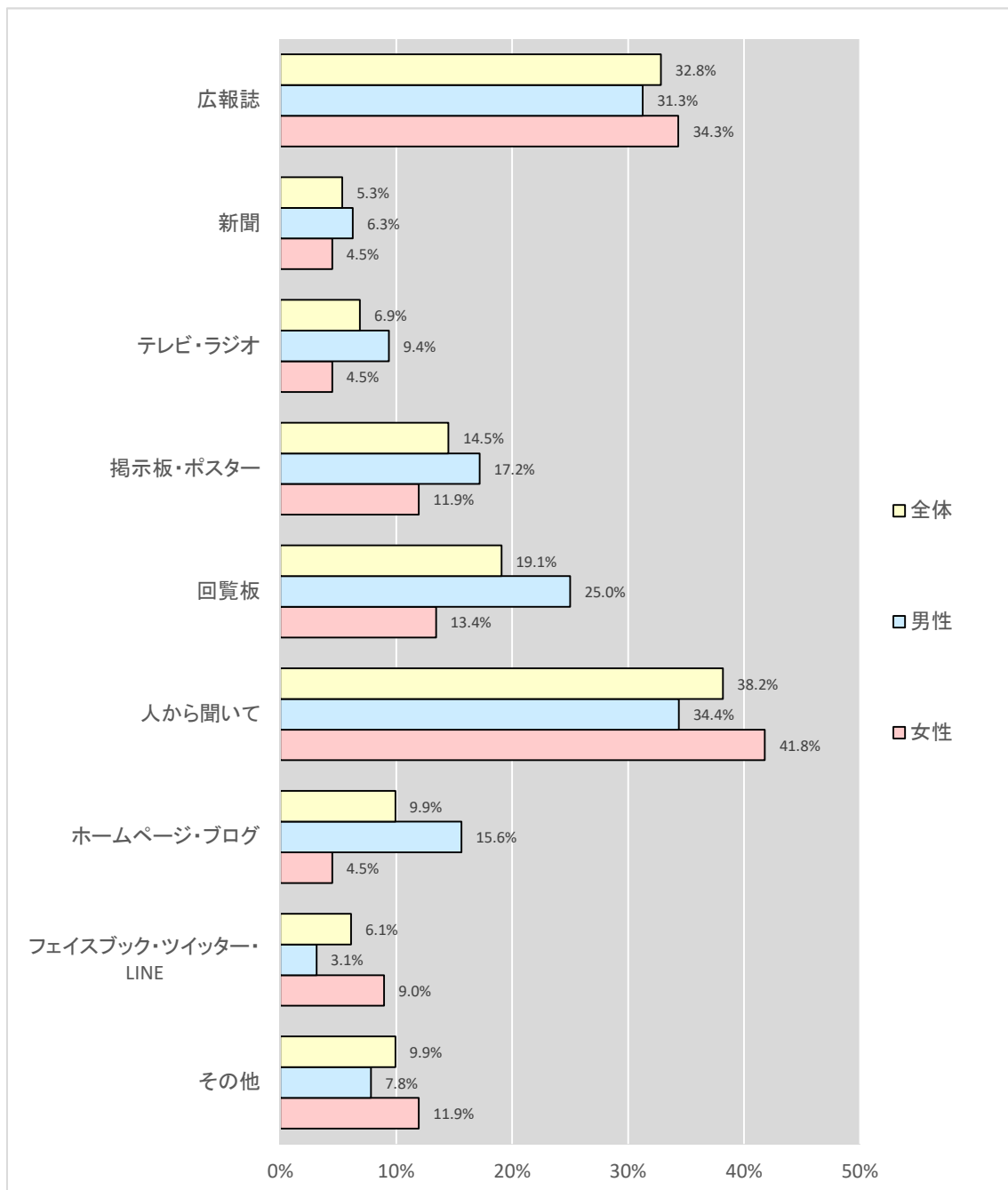
参加しなかった理由では、「知らなかったから」と回答した方の割合が51.5%、「知っていたが、興味がなかったから」24.3%となっており、特に30代以下の若い世代の6割以上に、地域の運動・スポーツ行事の内容や参加方法に関する情報が届いていないことがわかります。

図17 地域の運動・スポーツ行事に参加したことの理由



スポーツイベント情報入手の手段としては、「人から聞いて」、「広報誌」と回答した方の割合が高く、「回覧板」、「掲示板・ポスター」を加えた紙媒体で情報を入手した方が多いものの、今後は、発信手段として、「フェイスブック・X（旧ツイッター）・LINE」や「ホームページ・ブログ」を活用し、若い世代にも伝わるような積極的な情報の発信・配信方法の改善が求められます。

図 18 参加した行事を何で知りましたか



○ 障害者スポーツに関する意識

障害者スポーツについては、認知度は高いものの、障害者スポーツを「している」、または「したことがある」と回答した方の割合は1割程度と、前回調査時と同水準となっています。

東京2020パラリンピック競技大会では、本市出身の車いすラグビーの池透暢選手や、バドミントンの藤原大輔選手などが活躍しており、今後の参加者の増加が期待されます。

図19 障害者スポーツを知っているか

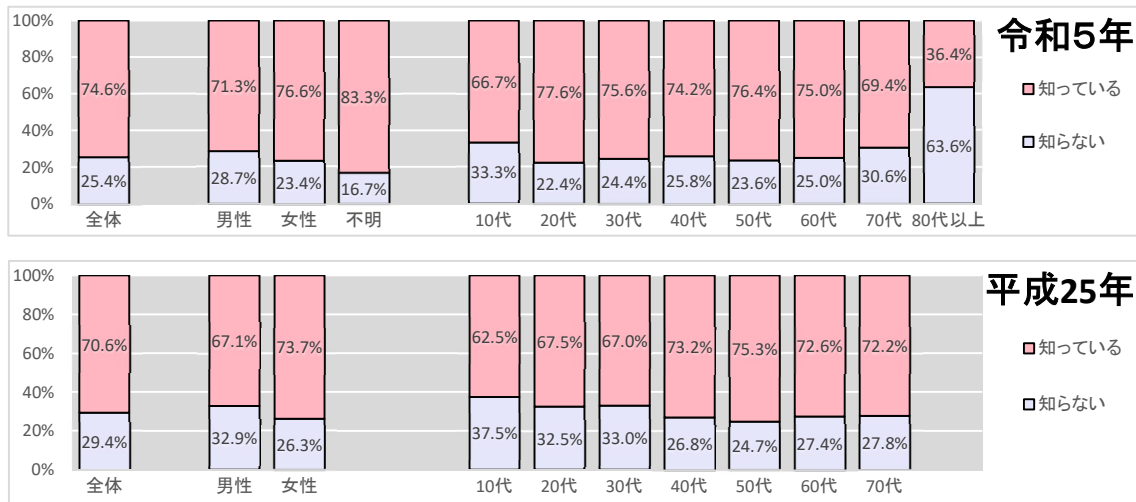
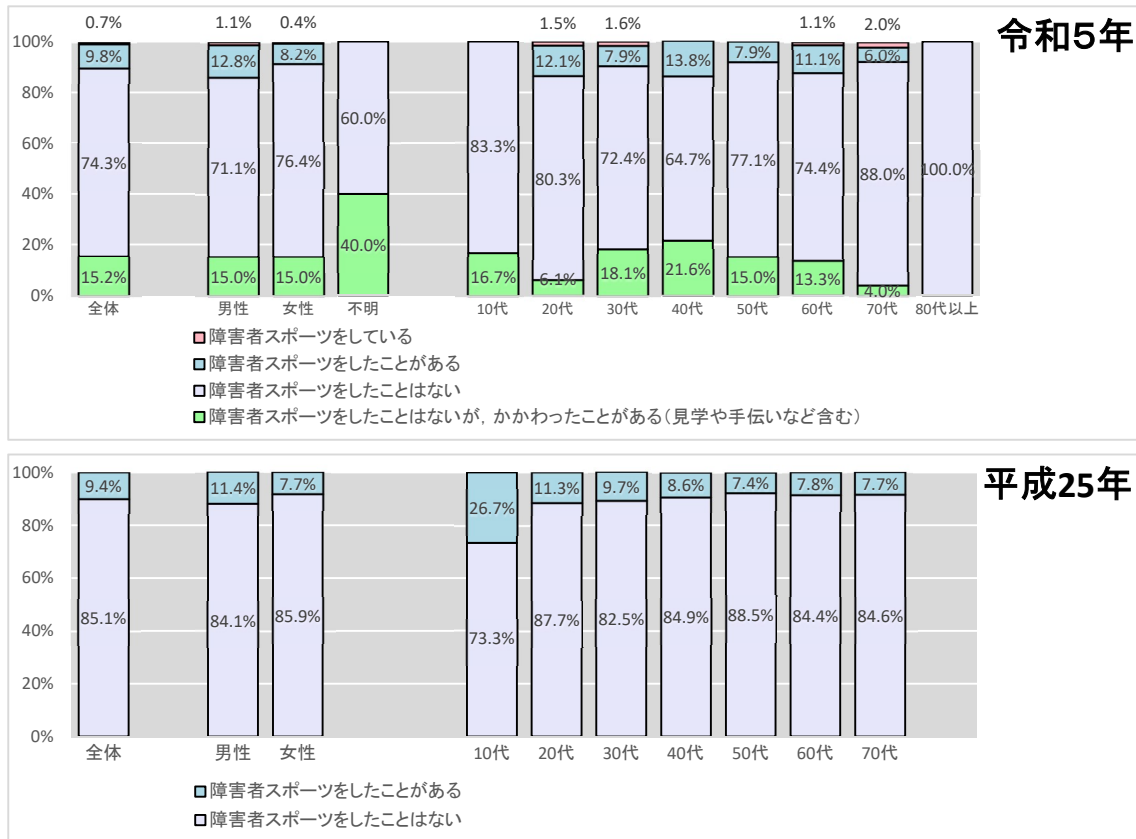


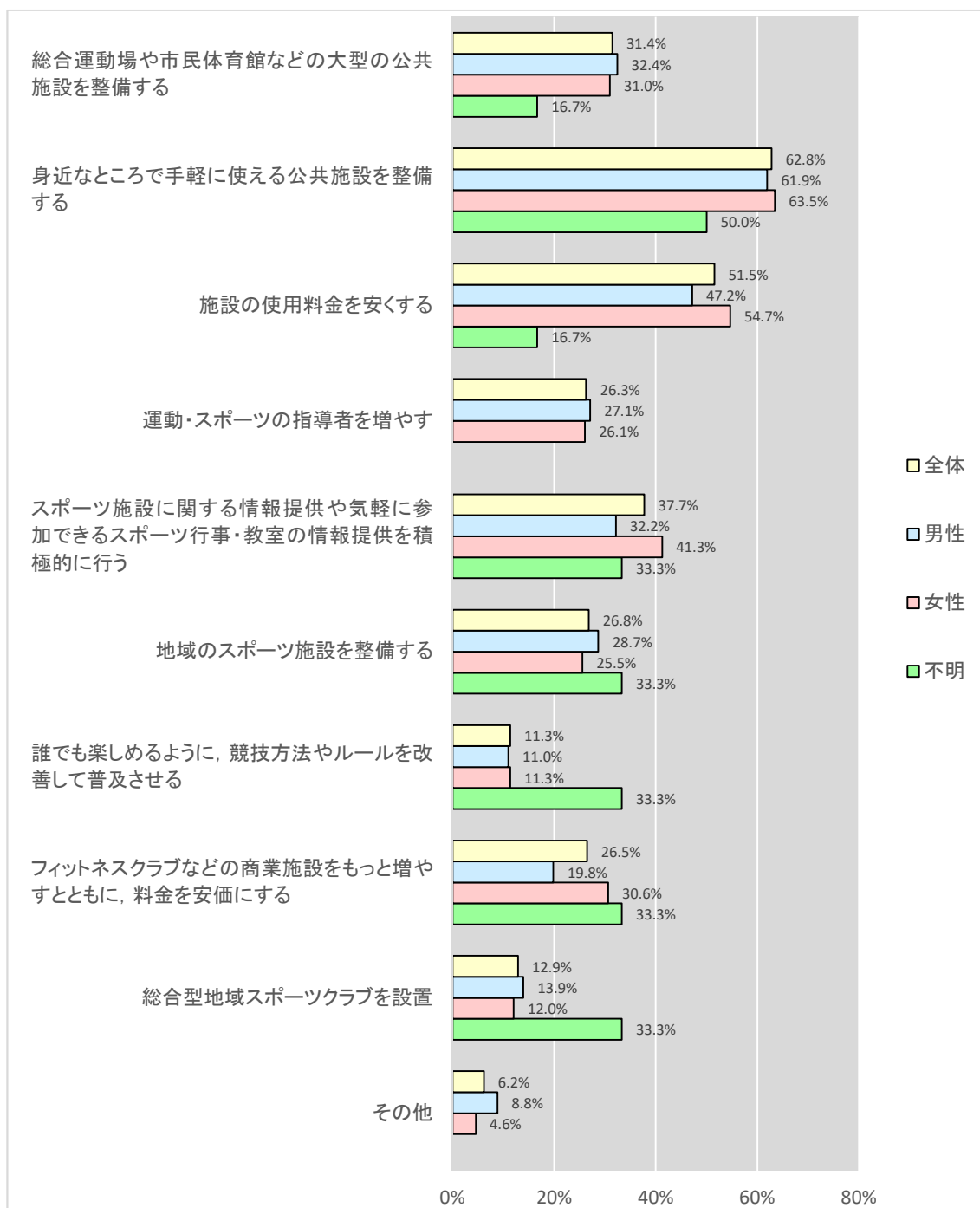
図20 障害者スポーツをしたことがあるか



○ 運動・スポーツ施設やスポーツ振興に対する意識

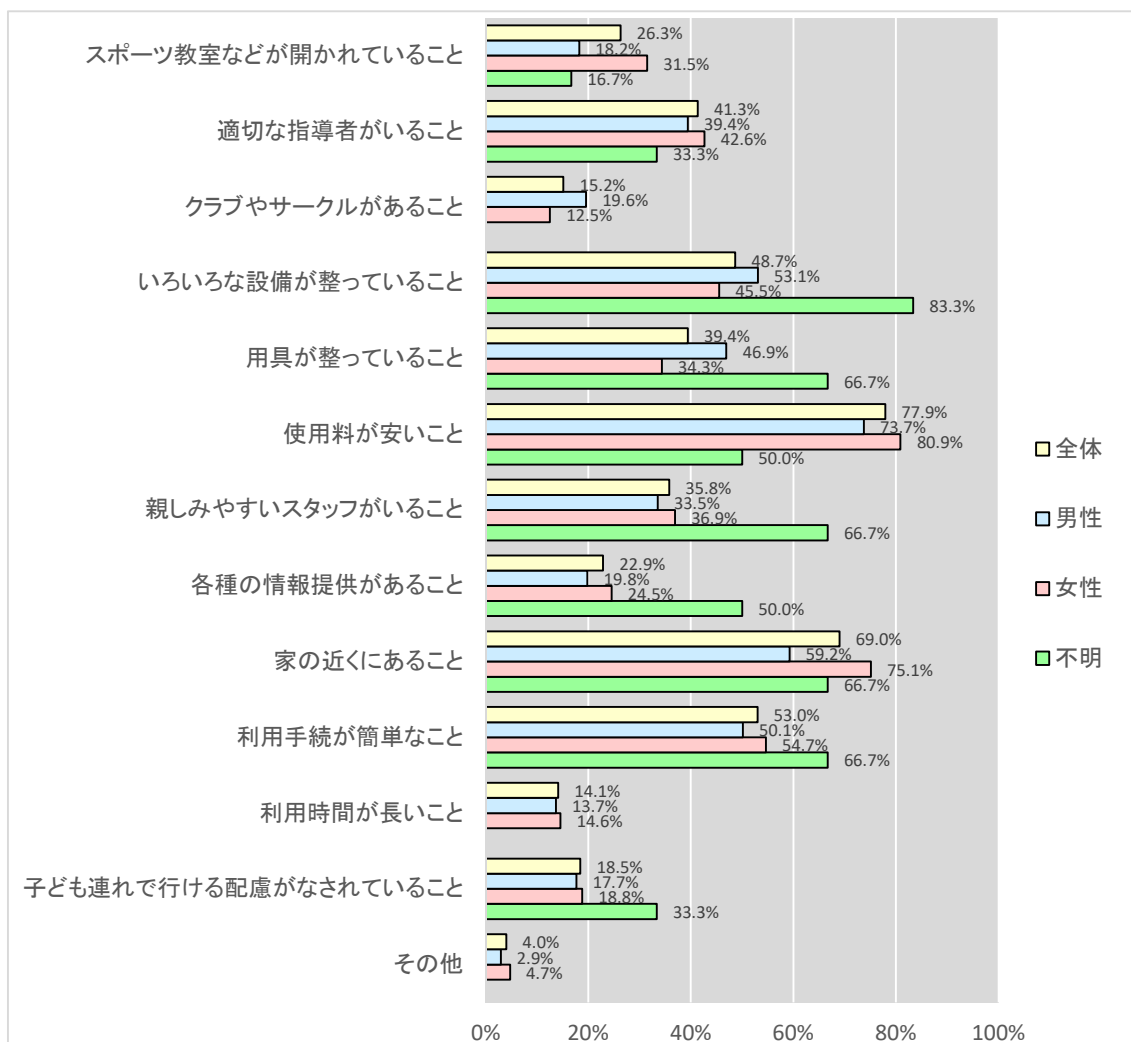
運動・スポーツ施設やスポーツ振興に対する要望では、「身近なところで手軽に使える公共施設を整備する」と回答した方の割合が62.8%、「施設の使用料金を安くする」51.5%、「スポーツ施設に関する情報提供や気軽に参加できるスポーツ行事・教室の情報提供を積極的に行う」が37.7%の順となっており、前回に引続き、身近なところで安価に利用することができる公共スポーツ施設の整備と積極的な情報発信が求められています。

図 21 スポーツ振興に重要なこと



スポーツ施設を利用する際の条件については、「使用料が安いこと」と回答した方の割合が77.9%で最も多く、次いで「家の近くにあること」69.0%、「利用手続きが簡単なこと」53.0%となっています。

図 22 運動・スポーツ施設の利用条件



本市では新たなスポーツ施設の整備は進んでおらず、経年劣化などによる修繕などが必要な施設が増加しています。

調査の結果を踏まえると、多様化する市民のニーズに合わせた運動やスポーツが実施できる施設を、市民が身近に感じることでできるエリアに整備することが求められています。

また、学校運動部活動の地域移行などの改革に対応できる施設整備の方策を検討するとともに、東京 2020 オリンピック・パラリンピックなどで注目されたBMXやスケートボードなどアーバンスポーツ施設や熱中症対策として屋内施設への冷房設備の設置などの環境整備を行い、継続して手軽に利用できる施設整備を進める必要があります。

2 「高知市のスポーツ指導者に関する調査」から見えるスポーツの組織と指導者

本市におけるスポーツ指導者の意識及び指導状況を知るため、高知市スポーツ指導員を対象に、アンケート調査を行いました。

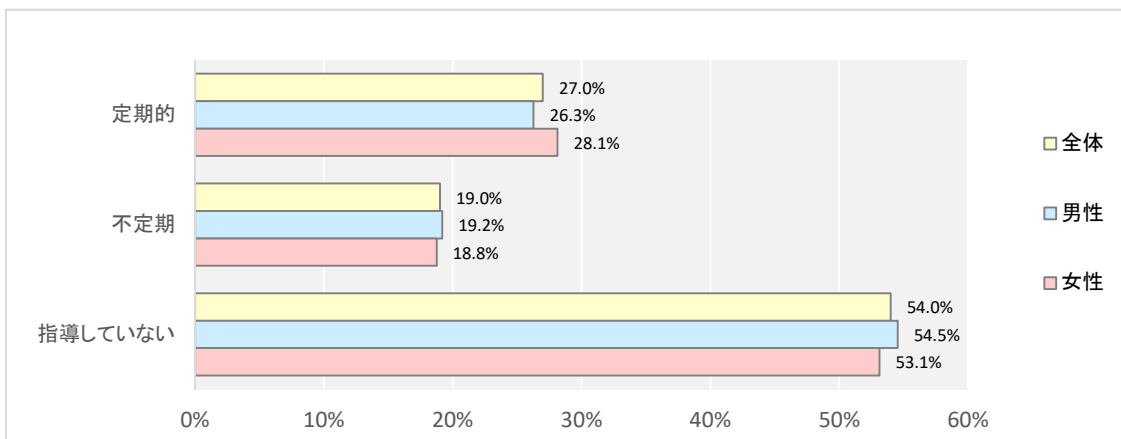
調査実施時期		令和5年9月		(前回)平成25年9月	
属性	回答	回答者数	割合 (%)	回答者数	割合 (%)
性別	男性	99	60.7	160	62.3
	女性	64	39.3	96	37.4
	無回答	—	—	1	0.4
年齢	20代	—	—	—	—
	30代	1	0.6	14	5.4
	40代	16	9.8	36	14.0
	50代	30	18.4	67	26.1
	60代	45	27.6	101	39.3
	70代	61	37.4	70代以上	70代以上
	80代以上	9	5.5		
	無回答	1	0.6	3	1.2
合計		163	100	257	100

※ 割合 (%) は小数点第2位以下四捨五入

○ 高知市のスポーツ指導者の意識

スポーツ指導員の有資格者のうち、「定期的に指導している」と回答した方の割合は、27.0%、現在全く指導に携わっていないと回答した方の割合が54.0%となっています。

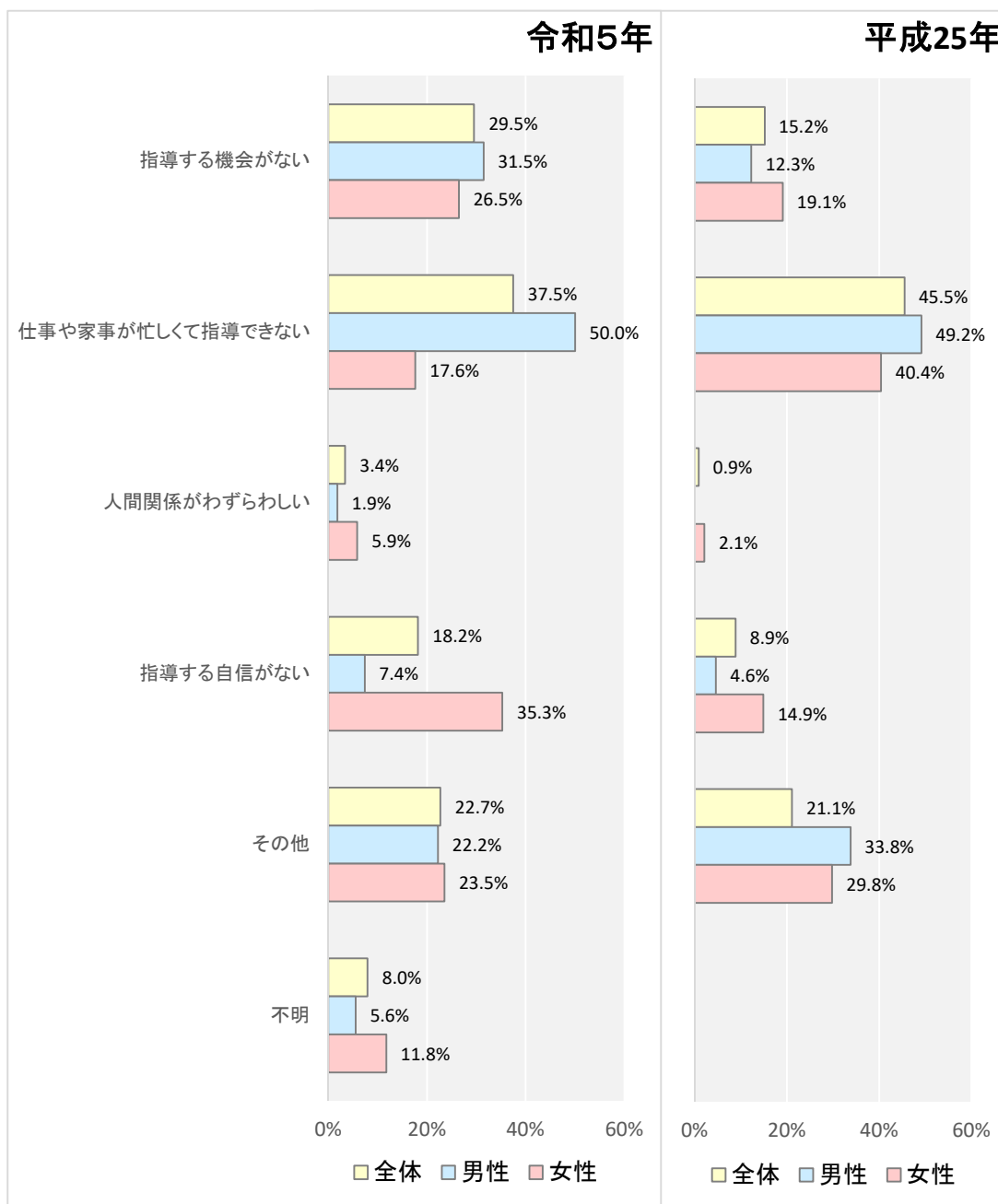
図 23 現在の指導状況



指導していない理由としては、「仕事や家事が忙しくて指導できない」と回答した方の割合が37.5%と最も高く、特に男性では50.0%となっています。次いで「指導する機会がない」29.5%、「指導する自信がない」18.2%となっています。

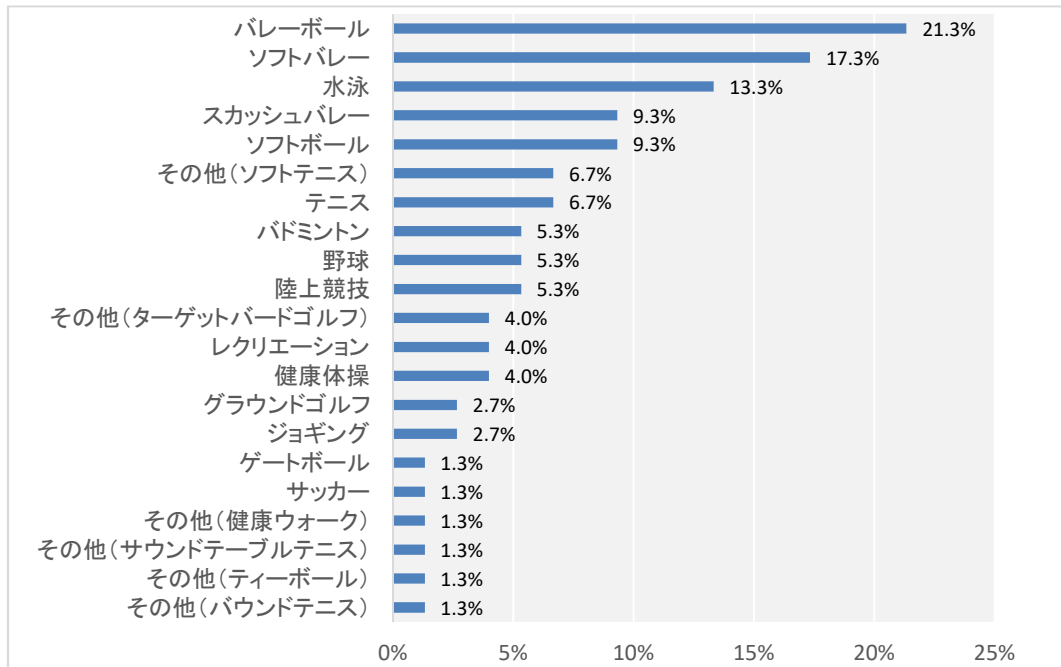
女性では「指導する自信がない」と回答した方の割合が35.3%と、前回調査時と比較して20ポイント余り増加しており、指導する自信を高めるための学習機会の確保や環境整備が必要です。

図 24 指導していない理由



現在、指導している種目は、「バレーボール」と回答した方の割合が21.3%と最も多く、「ソフトバレー」17.3%、「水泳」13.3%と続いています。

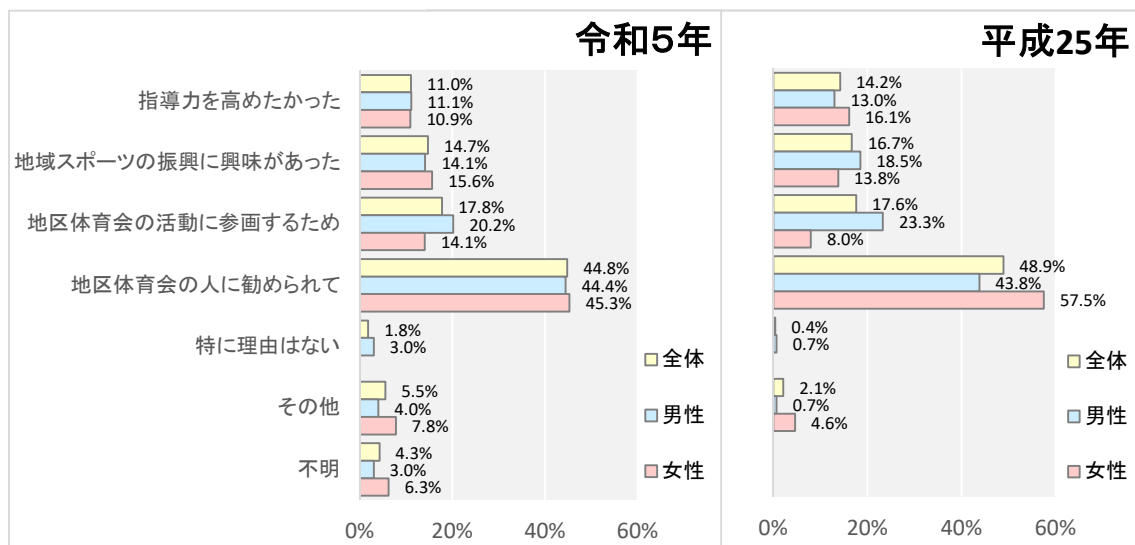
図 25 指導種目



スポーツ指導員の資格を取得しようと思った主な動機は、「地区体育会の人に勧められて」と回答した方の割合が最も多くなっています。

今後も、地区体育会への入会者の増加を図るとともに、スポーツ指導員として活躍していただける方を増やしていくことが必要です。

図 26 スポーツ指導員資格の取得動機



資格取得による効果については、7割の指導者が「効果ある」と回答しており、理由としては「スポーツ関係団体内における役割・活動が広がった」と回答した方の割合が最も高くなっています。

図 27 資格を取得した効果の有無

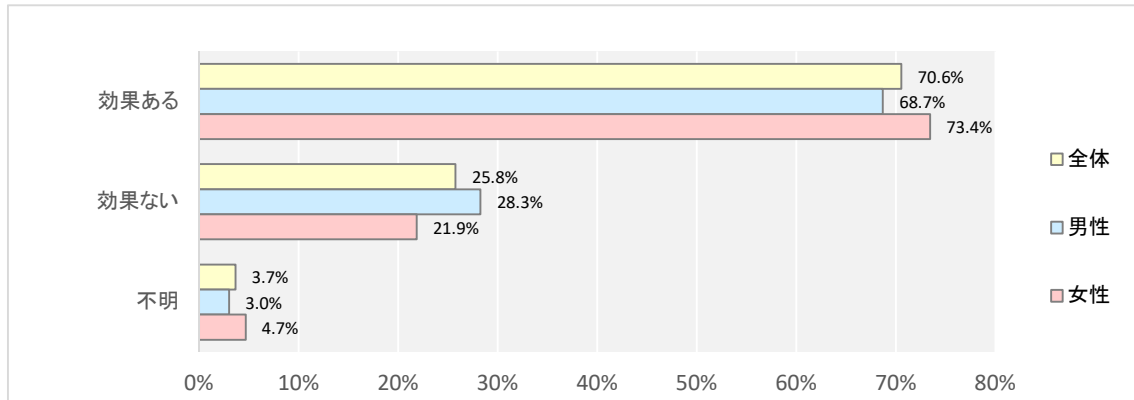
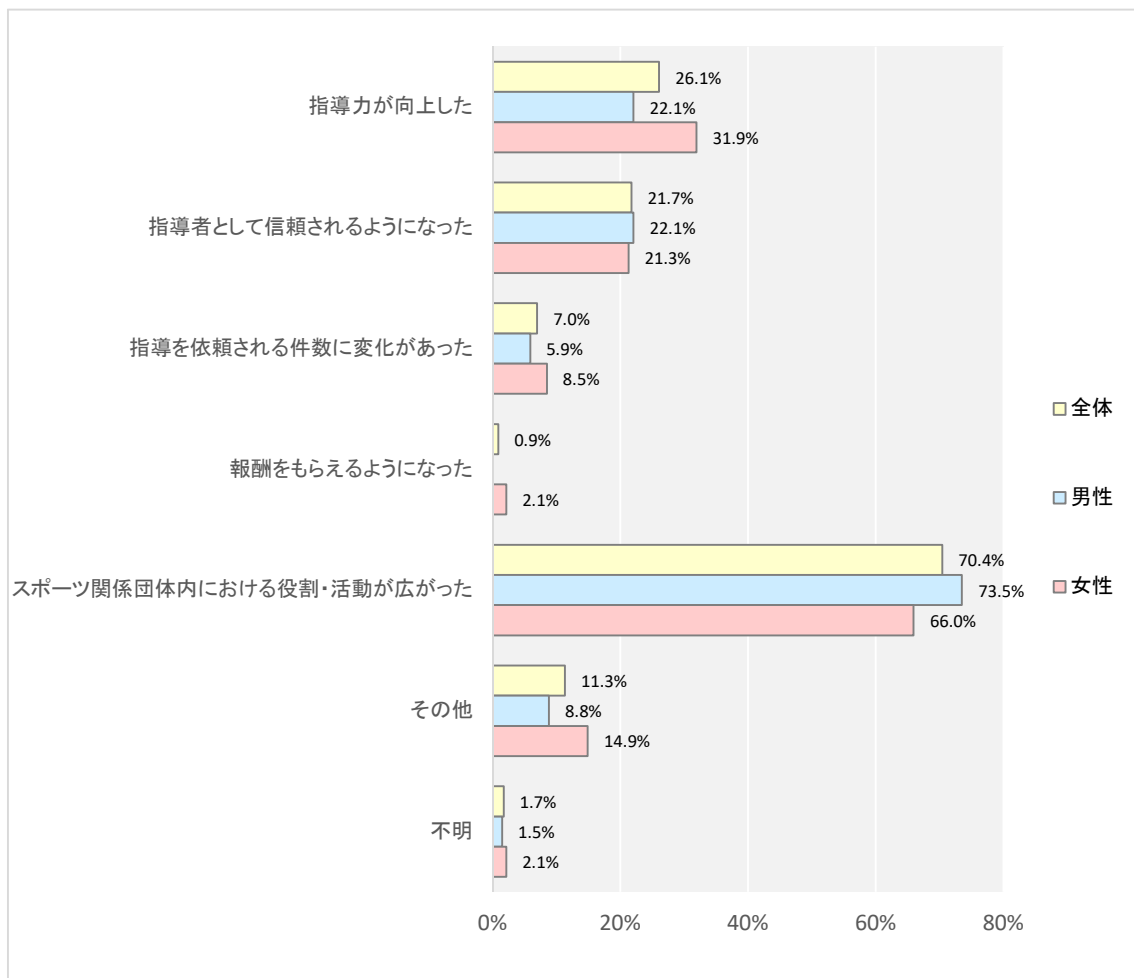


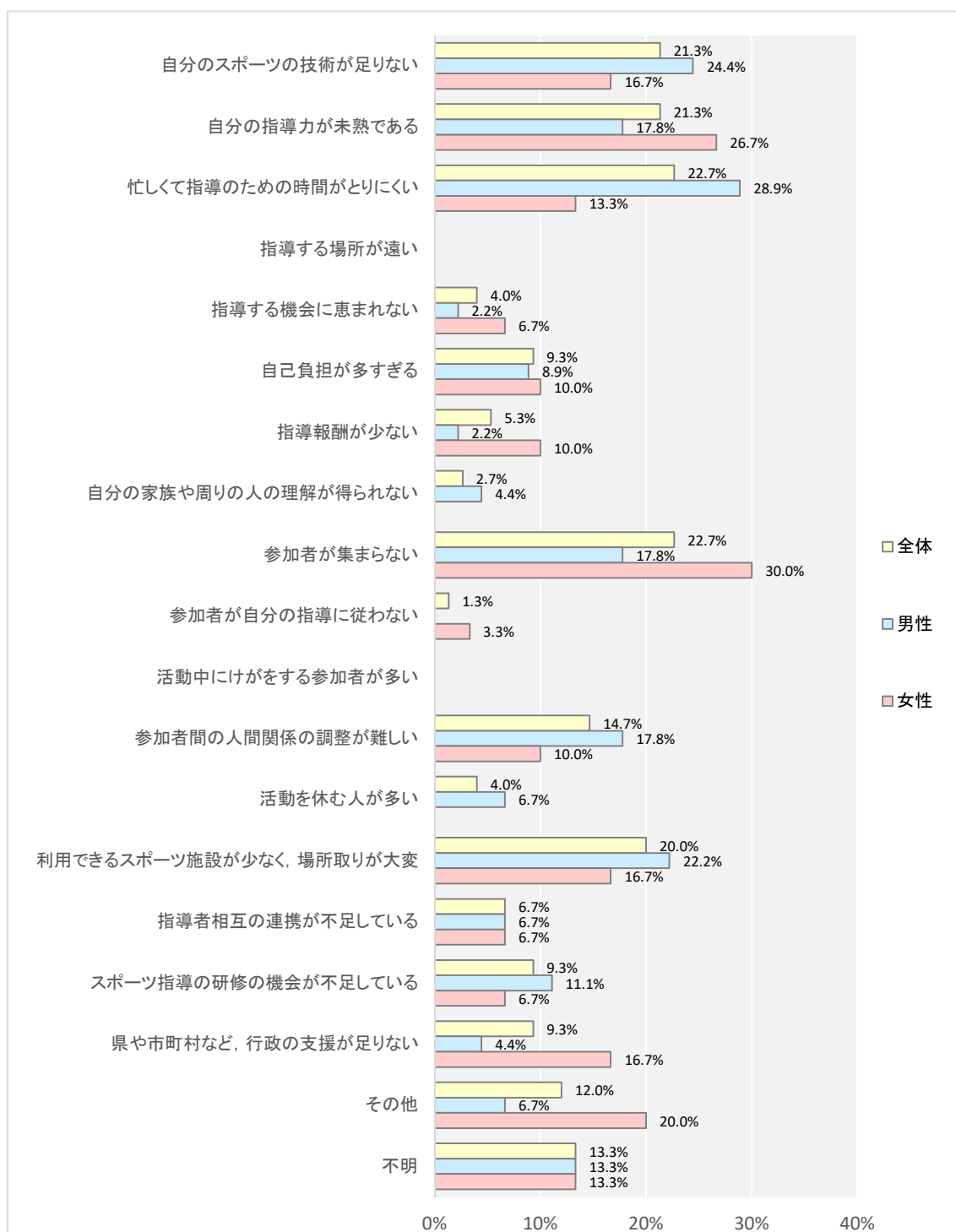
図 28 資格を取得した効果ありの理由



指導にあたり困っていることは、「忙しくて指導のための時間がとりにくい」、「参加者が集まらない」と回答した方の割合が22.7%と最も高く、次いで「自分のスポーツの技術が足りない」21.3%、「自分の指導力が未熟である」21.3%、「利用できる施設が少なく、場所取りが大変」20.0%となっています。

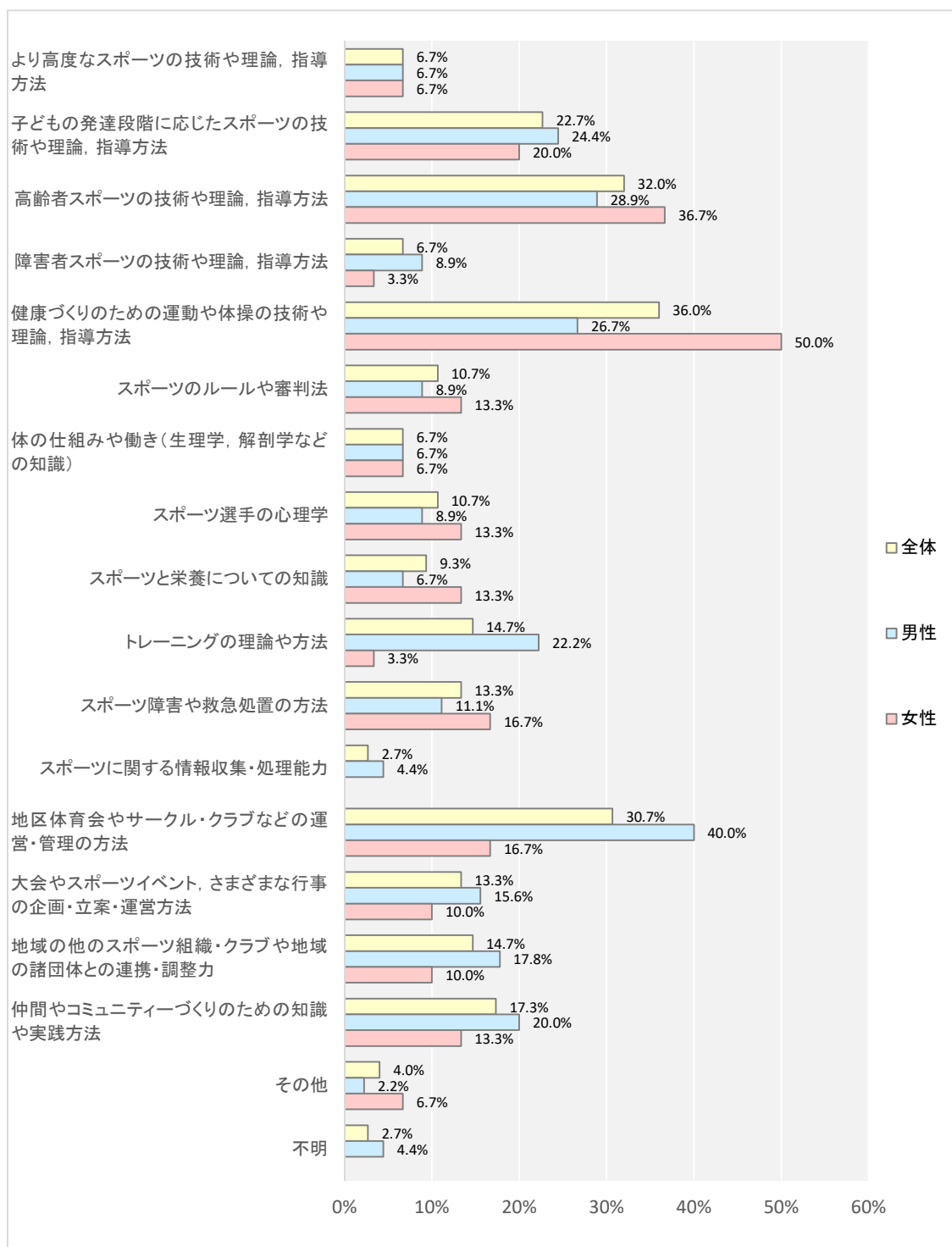
指導者のスキルアップを図ること、指導する時間と場の確保が課題となっていることがうかがえます。

図 29 指導にあたり困っていること



今後さらに高めたい技術・知識・能力では、「健康づくりのための運動や体操の技術や理論，指導方法」，「高齢者スポーツの技術や理論，指導方法」，「地区体育会やサークル・クラブなどの運営・管理の方法」と回答した方の割合が高く，指導者のニーズに応じた講習会の開催などが求められています。

図 30 さらに高めたい技術・知識・能力



3 第4次高知市スポーツ推進計画の総括的な評価

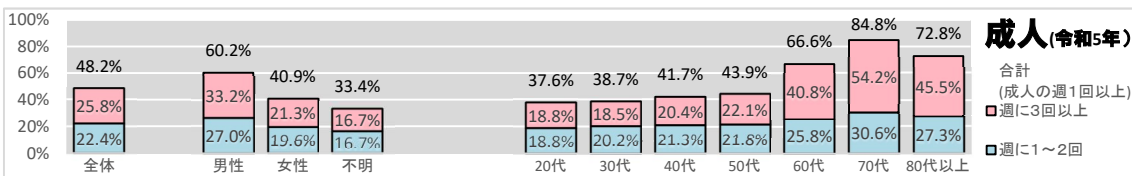
第4次高知市スポーツ推進計画は、市民一人ひとりがいつでも、どこでも、だれとでも、いつまでも安全にスポーツ活動に親しむことのできる生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の整備を推進し、国がスポーツ基本計画に掲げる「成人の週1回以上のスポーツ実施率が65%程度となること」を総合目標としました。

◎総合目標：「成人の週1回以上のスポーツ実施率が65%程度となること」

今回の調査結果からは、「成人の週1回以上」のスポーツ実施率は48.2%で、目標の65%には至っておらず、また、女性の実施率は40.8%と男性の60.2%を大きく下回っており、女性のスポーツ実施率の向上は、喫緊の課題といえます。

また、20代から50代までの働く世代・子育て世代の実施率が低い傾向がみられ、さまざまな世代が、変化するライフスタイルに応じて生涯にわたってスポーツが継続できる環境整備が必要です。

図3 週に1回以上のスポーツ実施頻度〈成人(10代を除く)〉(再掲 P6)



また、その目標達成を目指すために次の5つの基本施策に取り組みました。

基本施策(1) 多様な参加ができる「する」スポーツの充実

○市民が楽しみながら健康を維持・増進し得る運動・スポーツ環境の整備

- ① それぞれのスポーツ施設では、施設管理者により性別や年代などを考慮したスポーツ教室が開催されました。

スポーツ実施率の低い女性をターゲットにしたヨガやピラティスなどの教室も開催していますが、令和4年度においては女性向けの教室は3件の実施に留まりました。

【スポーツ教室開催状況】

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
スポーツ教室 開催数(件)	69	78	89	102	156	163	129	149	148
スポーツ教室 受講者 延べ人数(人)	6,138	6,637	6,913	8,193	11,242	10,930	5,302	10,354	11,636
内 女性のみを対象とした 教室 開催数(件)	1	1	2	2	2	3	3	3	3
内 " 受講者 延べ人数(人)	140	161	291	294	199	292	135	320	384
内 中高年(50歳以上)対象 教室 開催数(件)	12	12	14	17	51	17	18	17	17
内 " 受講者 延べ人数(人)	1,272	1,269	1,236	1,443	3,177	1,690	920	1,581	1,993
内 トップアスリート招聘事業 開催数(件)	-	-	-	1	1	3	0	2	2
内 トップアスリート招聘事業 参加者 延べ人数(人)	-	-	-	294	236	155	0	107	184

- ② 毎年、市民スポーツレクリエーション祭を開催し、健康づくりや初心者向けスポーツ教室、障害者スポーツなど体験する場を提供しました。
- ③ 地区体育会などが実施するスポーツイベントについてのポスターやチラシを市役所庁内や本市スポーツ施設に掲示し、情報周知に努めました。

○地区体育会、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団の登録状況

(資料編 P47～50 参照)

地区体育会及び小学校区をエリアとして活動している総合型地域スポーツクラブは、高知市体育会に登録することになっており、毎年、地区体育会及び総合型地域スポーツクラブから会員数やクラブ数の報告がされています。

令和4年度現在、地区体育会は34団体、小学校区をエリアとして活動している総合型クラブは4団体です。(小学校区は41)

高知市体育会に加入している市民は12,262人で、市民のうち約4%が高知市体育会の会員です。活動しているクラブの総数は336クラブで、5,586人のクラブ員がおり、726人の指導者が登録しています。

高知市体育会への登録状況をみると、クラブ数は平成25年度の396から令和4年度の336へ、クラブ員数も同様に7,108人から5,586人へ、指導者数は881人から726人へと減少しています。

活動しているクラブの種目は、バレーボールが44クラブで最も多く、次いでソフトバレーボール37クラブ、バドミントン34クラブなどです。

地区体育会及び総合型地域スポーツクラブは、日常的なスポーツ活動のほかに、地域の実態や特性に応じたスポーツイベントを行っているほか、地域のまちづくりイベントや防災活動に積極的に参画している団体、あるいはイベントを主催している団体もあります。

令和2年度以降の活動は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大会や行事の中止、規模縮小など大きな影響を受けました。令和元年度まで毎年地区運動会を開催していた団体も、令和2年度、3年度は中止しており、令和4年度は2地区のみの開催となりました。

小学生のスポーツ少年団への登録者数は、平成24年度の2,784人から令和4年度2,006人へと、児童数の減少に伴い減少しており、また、加入率も平成24年度15.8%から令和4年度12.2%へと減少しています。男子の加入率は17.5%で平成26年度の23.3%をピークに減少傾向にあり、女子は6.8%で約6から7%で推移しています。

○地区体育会や総合型地域スポーツクラブの振興

- ① 本市では、地区体育会運営事業の補助を行っており、指導者研修会補助や近隣地区体育会合同スポーツイベント事業費の支援を行いました。
- ② コロナ禍の影響を受け、令和2年度、3年度は全地区で中止となりましたが、毎年、地区体育会を中心に地区運動会が開催されました。
- また、地区体育会単位で競う地区対抗スポーツ大会や駅伝大会を開催し、地域住民のスポーツ振興を図りました。

【地区体育会活動(含む総合型)】

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
地区運動会 参加延べ人数(人)	15,300	16,000	14,000	6,750	15,250	12,199	コロナで中止	コロナで中止	550
地区対抗スポーツ大会 (秋季) 参加人数(人)	750	530	500	550	534	472	コロナで中止	コロナで中止	240
地区対抗スポーツ大会 (駅伝) 参加人数(人)	150	150	中止	94	108	95	コロナで中止	コロナで中止	参加者不足により中止



地区対抗スポーツ大会開会式

- ③ 本市では、「総合型地域スポーツクラブ育成事業」を実施しており、総合型スポーツクラブ及び総合型スポーツクラブ設立を検討している地区体育会を対象として、継続的なグループ活動を推進するためのスポーツ教室開催の運営を支援しています。

【総合型地域スポーツクラブ育成事業】

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
実施件数	2	2	2	0	1	1	1	該当なし	申請なし

基本施策(2) 魅力ある「みる」スポーツの充実

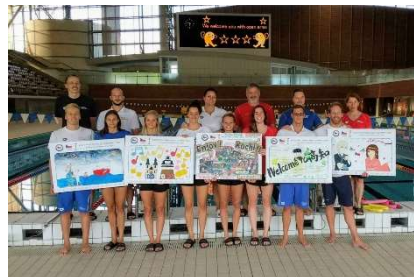
○トップアスリートの競技にふれる機会の提供

- ① トップアスリートと一緒に運動・スポーツを実施できる機会としては、平成29年度から、トップアスリート招聘事業においてスポーツ教室などを開催し、選手との交流の場を設けるとともに、ハイレベルスポーツ競技やトップアスリートの魅力に触れる機会の提供に努めました。

【スポーツ教室開催状況】

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
トップアスリート招聘事業開催数(件)	-	-	-	1	1	3	0	2	2
トップアスリート招聘事業参加者 延べ人数(人)	-	-	-	294	236	155	0	107	184

- ② ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック競技大会をはじめとした世界大会において、本市では、トンガ王国、シンガポール共和国、チェコ共和国のホストタウンとして登録し、各競技選手の事前合宿を受け入れました。
- 受け入れの際には、広く市民に対しての公開練習やジュニアチームへの競技指導の機会を設けるなど、世界トップレベルの選手の技術を身近に感じることができる機会の創出に努めることで、市民のスポーツを実施する機運の醸成に取り組むとともに、各国選手との交流により国際理解を深めることができました。



ホストタウン・事前合宿

- ③ 毎年受け入れている、プロ野球チームオリックス・バファローズのキャンプでは、公開練習や試合などプロ野球選手のレベルの高いプレーを間近に見ることができる機会となりました。

キャンプ中には、市内のスポーツ少年団を対象とした野球教室を行い、プロ野球選手から子どもたちが直接指導していただくことで、野球への情熱を高めるだけでなく、将来の成長にも大いに役立つ取組となっています。



オリックス・バファローズによる
スポーツ少年団野球教室

- ④ 高知県唯一のプロ野球チームであり，四国アイランドリーグ plus に所属する高知ファイティングドッグスに対し，球場の使用料の減免や試合の広報，物品販売に協力し，球団がリーグ戦を戦い抜くための支援を行いました。



市庁舎内での
広報を兼ねた物品販売

- ⑤ 本市は，令和3年11月に，Jリーグ（日本プロサッカーリーグ）加入を目指して活動し，現在はJFL（日本フットボールリーグ）に所属する高知ユナイテッドスポーツクラブのホームタウンに認定され，チームの試合や活動に関する広報協力をはじめ，練習会場の確保やジュニア選手へのサッカー教室を行いました。

- ⑥ 令和4年4月には，県内初となる女子野球クラブチーム「10CaratExpress」が設立され，現在，中四国女子硬式野球連盟が主催する中四国地方の高校・大学・社会人・クラブチームがリーグ戦で競う，ルビーリーグで活躍をしています。

また，本市は，令和5年11月に一般社団法人全日本女子野球連盟により「女子野球タウン」に認定されており，女子野球の普及と地域活性化を図ってまいります。



一般社団法人全日本女子野球連盟
女子野球タウン認定式

基本施策 (3) 感動を分かち合う「ささえる」スポーツの充実

○スポーツ指導者の養成と活躍する場・機会の充実 (資料編 P47, 48 参照)

① 地域でのスポーツ活動を担うスポーツ指導者の養成を目的とした高知市スポーツ指導員養成教室を開催し、平成26年から10年間で75名をスポーツ指導員に認定しました。

スポーツ指導員は、地域でスポーツ指導を行うほか、本市が開催する地区対抗スポーツ大会や体育始め式などのスポーツ事業において、運営スタッフとして活動しています。

② また、スポーツ指導員養成教室の講習科目に「障害者スポーツの指導」を組み入れ、障害者スポーツの指導者養成に努めました。

【高知市スポーツ指導員養成教室】

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
指導員養成教室 修了生(人)	6	9	5	0	19	8	コロナで 中止	14	参加者不 足で中止	14

③ 地域スポーツの普及・推進を担うスポーツ推進委員に対しては、毎年、全国や四国、高知県内で開催されるスポーツ推進委員研修会などへの参加を支援するとともに、研修報告の場を設け、知識や情報の共有に努めています。また、障害者スポーツへの理解や普及促進のため、実技研修を行っています。

基本施策 (4) 気軽に利用できる「場所」の充実

○公共スポーツ施設の整備と学校体育施設開放事業の拡充

① 新たなスポーツ施設としては、平成29年9月に、東部総合運動場に多目的ドーム（しらさぎドーム）を整備しました。

プロ野球キャンプをはじめ大学や社会人チームのトレーニングの場として活用され、また広く市民がスポーツを楽しむ場として親しまれています。

多目的ドーム（しらさぎドーム）の延べ利用者数は、令和4年度は年間4万人を超えています。



東部総合運動場



多目的ドーム（しらさぎドーム）

- ② 本市のスポーツ施設の延べ利用者数は、平成26年度は807,221人でしたが、令和元年度では、715,240人と減少傾向にあり、直近3年間で利用者数が増加している施設もありますが、令和4年度はコロナ禍の影響もあり、491,947人にまで減少しています。

【高知市体育施設利用状況】

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
総合運動場(人)	505,534	449,214	417,942	451,937	450,955	393,812	369,233	399,070	356,508
東部総合運動場(人)	265,903	280,147	303,179	307,146	312,731	295,814	231,413	221,272	108,558
針木運動公園(人)	16,509	15,441	11,595	9,748	9,130	8,000	6,576	6,769	7,267
城ノ平運動公園(人)	11,220	13,962	16,423	11,517	12,911	11,466	8,657	10,530	12,200
土佐山運動広場(人)	3,287	3,471	2,733	2,888	2,759	2,323	1,262	1,115	1,583
土佐山西川複合集会所(人)	61	0	10	50	50	30	0	0	0
春野スポーツ施設(人)	4,707	5,216	5,851	5,513	4,619	3,795	3,057	4,781	5,831
合計	807,221	767,451	757,733	788,799	793,155	715,240	620,198	643,537	491,947

また、本市のスポーツ施設には、完成から長い年月を経て、経年劣化による改修工事が必要な施設が多くあります。

総合運動場では、野球場や陸上競技場などが改修してから20年以上経過しており、陸上競技場トラック改良工事や高知球場スタンド棟防水工事を行いました。

東部総合運動場では、令和3年度に前回改修から25年近くが経っていたテニスコートの全面改良工事や、平成13年完成の「くろしおアリーナ」音響設備工事などを行い、他の施設についても多くの改修やアップグレードを図りました。

【スポーツ施設 建設年】



総合運動場

名 称	完成年月
①相撲場	昭和15年10月 (平成13年3月 全面改修)
②陸上競技場 (りょうまスタジアム)	昭和25年9月 (平成12年3月 全面改修)
③野球場	昭和26年9月 (平成12年 改修・拡張)
④テニスコート	平成2年4月 (平成12年 改修)
⑤補助グラウンド	平成2年11月
⑥多目的ドーム (よさこいドーム)	平成12年12月
⑦スケートボード場	平成13年3月
⑧総合体育館	平成3年12月



東部総合運動場

名 称	完成年月
①多目的グラウンド	昭和61年7月
②体育センター	昭和62年4月
③野球場	平成2年8月
④打撃練習場	平成10年10月
⑤テニスコート	平成10年11月 (令和4年3月 全面改修)
⑥屋内競技場 (くろしおアリーナ)	平成13年5月
⑦多目的ドーム (しらさぎドーム)	平成29年9月



針木運動公園

名 称	完成年月日
針木運動公園	昭和56年4月



城ノ平運動公園

名 称	完成年月日
城ノ平運動公園	平成13年8月 (平成14年1月)



土佐山運動広場

名 称	完成年月
土佐山運動広場	昭和61年

- ③ 身近な場所でスポーツをすることができる学校体育施設開放事業では、高知市立小学校 38 校、中学校 16 校、義務教育学校 2 校、旧小中学校 2 校の体育施設を開放しており、多くの市民に利用いただいています。

施設の延べ利用者数は、コロナ禍の令和 3 年度には 326,342 人まで落ち込んでいましたが、令和 4 年度は 517,583 人まで回復しています。

【学校体育施設開放利用状況】

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
学校開放校(校)	小学校41 中学校16	小学校41 中学校16	小学校41 中学校16	小学校41 中学校16	小学校41 中学校16	小学校41 中学校16	小学校39 中学校16 義務教育2 旧小中2	小学校39 中学校16 義務教育2 旧小中2	小学校38 中学校16 義務教育2 旧小中2
学校開放件数(件)	27,060	28,042	28,994	30,688	30,692	28,386	27,388	20,507	26,431
学校開放延べ人数(人)	517,002	579,203	561,556	588,228	612,577	584,071	423,345	326,342	517,583

基本施策 (5) スポーツを楽しむきっかけとなる「情報」の充実

○スポーツ情報システムの改善・充実

- ① あらゆる立場でスポーツを楽しむきっかけとなる豊富な情報は、スポーツ推進計画の基本施策すべてに繋がる重要な施策です。

世代やライフスタイルによりスポーツへの関わり方が多様化しており、広く市民に情報を伝えるためには、さまざまな伝達ツールを活用し、情報発信していく必要があります。

従来から大きな役割を担っている広報誌「あかるいまち」はもちろんのこと、近年では、本市ホームページや、SNSなどを活用した広報に努めています。

○市民によるスポーツ情報の提供

- ① スポーツ情報を提供する場として、ホームページや広報誌を活用してきましたが、地域で開催するスポーツイベントや行事の案内・参加の呼びかけを自ら発信できる市民参加型システムの構築や導入には至っておらず、今後の課題です。

4 課題整理

第4次高知市スポーツ推進計画の評価及び令和5年9月に実施した「高知市民の健康とスポーツに関する意識調査」、「高知市のスポーツ指導者に関する調査」の結果及びスポーツ施設の状況を踏まえ、本市のスポーツ推進において、次の事項に取り組む必要があります。

- (1) 本市では、性別や年齢を問わず、スポーツ実施率が低い傾向にあり、特に女性のスポーツ実施率が低いことがわかりました。

運動・スポーツを週に1回以上行う人が増加しつつありますが、更なるスポーツ推進のためには、SNSなどデジタルを活用した効果的な情報提供・発信を行い、市民のスポーツへの関心を高め、特に女性や20代から50代までの働く世代・子育て世代に運動・スポーツに触れ、楽しみを見出す機会を提供することで、スポーツ人口のすそ野拡大につなげる取組が必要です。

また、資格を取得した指導者が指導者としての活動ができていない実情を踏まえると、現場のニーズを把握して、指導者と指導する場のマッチングを行うことや、体育会や地域住民との連携や協働などによる指導者の活動支援が必要と考えられます。

- (2) 家族や仲間とあつまり、ライフスタイルに応じたスポーツをすることによって、子どもから高齢者までが生涯にわたってスポーツが継続でき、健康増進へとつながる環境整備が必要となります。

国際的なスポーツイベントである、ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック競技大会をはじめとする世界大会において、各国の選手団がホストタウンである本市で事前合宿を行い市民と交流することにより、市民のスポーツへの関心や興味が高まってきているものと考えられ、引続き、良好な友好関係を継続し、スポーツを通じた国際交流への取組が必要です。

また、誰もが使いやすい、ニーズに合った施設の新設や拡充も視野に入れた、施設の整備を行わなければなりません。

- (3) レスリングや水泳の飛込種目など、世界や全国の舞台で優秀な成績を収める地元選手が育ってきていますが、さらに多くの種目の競技力を底上げするためには、関係団体と連携したサポート体制の構築も必要となります。

また、地元のプロスポーツチームやクラブチームの試合会場での観戦者数は十分とは言えないため、これらのチームの活動を支援し、市民がトップレベルのプレイを間近に見ることによってスポーツに親しむ機会が持てるよう、応援機運を高めるための取組を行う必要があります。

さらに、東京2020パラリンピック競技大会では、本市から参加した選手などの活躍により、障害者スポーツへの関心も高まっており、障害者スポーツの更なる普及・推進に向け、認知度の向上を図るとともに、障害者スポーツの指導者や支援者（ボランティア）など地域で障害者スポーツを支えることのできる人材を養成することで、障害者がスポーツに触れる機会の増加に取り組む必要があります。

第3章 推進計画の基本方針と策定の方向性

1 計画の基本方針

本計画は、スポーツ基本法に基づく「第3期スポーツ基本計画」及び「第3期高知県スポーツ推進計画」を参酌し、「2011 高知市総合計画」に示している生涯スポーツ分野の施策をより具現化するものとして策定したスポーツ推進計画です。

計画策定にあたり、「高知市民の健康とスポーツに関する意識調査」、「高知市のスポーツ指導者に関する調査」を実施し、本市の現状や課題を十分に踏まえた計画を策定することに努めました。

国の「第3期スポーツ基本計画」で掲げられている新たな3つの視点「つくる／はぐぐむ」「あつまり、ともに、つながる」「誰もがアクセスできる」を、新たな施策の方向性に反映させます。

本計画においては、さまざまな世代がライフスタイルに応じて気軽にスポーツを楽しむことができる生涯スポーツの推進に取り組みます。

2 計画の目標

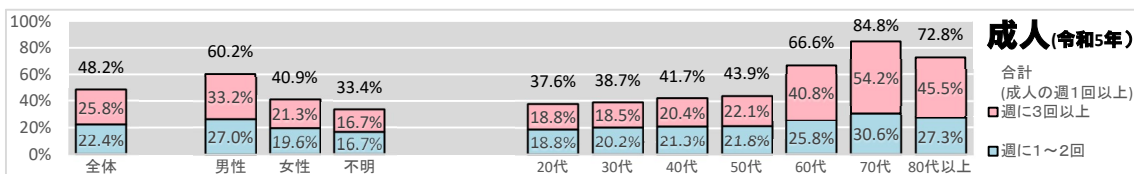
○ 総合目標

さまざまな世代がライフスタイルに応じて気軽にスポーツを楽しむことができる生涯スポーツの推進のため、国がスポーツ基本計画に掲げる「成人の週1回以上のスポーツ実施率が70%になること」を目標とします。

なお、その第一段階として、計画期間中間年の令和10年度末までに65%になることを目指します。

目標	成人の週1回以上のスポーツ実施率	48.2% ⇒	70% (令和15年度)
			65% (令和10年度)

図3 週に1回以上のスポーツ実施頻度〈成人(10代を除く)〉(再掲 P6)



○ 個別目標

総合目標の達成を目指すために、基本方針に基づく個別目標を設定します。

1 スポーツを「つくる／はぐくむ」ために

年齢や性別、障害の有無などに関係なく、より多くの人々がスポーツを楽しむことができ、健康の増進や交流の促進につなげるため、多様な主体がスポーツに参加できる環境の充実を目指します。

また、スポーツ指導者を養成し、スポーツ指導者とスポーツを楽しみたい市民のマッチングに努め、スポーツを継続的に行うための地域のスポーツクラブなどをサポートします。

さらに、現代のテクノロジーを活用してスポーツの魅力を広める取組として、新たなスポーツ活動として捉えられ、世界的な盛り上がりを見せているeスポーツを支援し普及促進に努めるとともに、より多くの人々にスポーツ情報を伝えるための、デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進、SNSなどを活用した広報を行います。

これらの取組を通じて、スポーツを楽しみ、より多くの人々がスポーツに参加できる環境を整え、より豊かな社会の実現を目指します。

2 スポーツで「あつまり、ともに、つながる」ために

スポーツ活動は、運動不足や生活習慣病の予防など、健康的な生活に繋がるとともに、スポーツを通じて人々が集まり、共に活動することで、社会的なつながりを深めることが期待できます。

生涯スポーツの推進を図ることで、あらゆるライフスタイルに応じた健康づくり、生きがいつくりに努めます。

より多くの人々がスポーツを楽しむことができるよう、多様化するニーズに合った施設の整備・有効活用に努めるとともに、スポーツを通じた国際交流による地域活性化に貢献していきます。

スポーツを通じて人々がつながり、共に活動することで、健康で充実した生活を送ることができる社会の実現を目指します。

3 スポーツに「誰もがアクセスできる」ために

地元のクラブチームなどへの支援を行うことにより、地域のスポーツ活動を活発化し競技力を底上げすることで、市民のスポーツへの機運を高めていきます。

トップアスリートとの交流の機会を創出することで、市民のスポーツに対する機運の醸成を図ります。

障害者がスポーツを気軽に楽しめる機会を提供することで、社会の多様性を尊重し共に活動できるよう障害者スポーツを推進します。

市民がスポーツへアクセスする機会を増やし、多くの人々が生涯にわたって継続的にスポーツを楽しめる社会の実現を目指します。

第4章 計画推進のための具体的施策

1 スポーツを「つくる／はぐくむ」

(1) 多様な主体がスポーツに参加できる環境の充実

【施策目標】

年齢や性別、障害の有無などに関係なく、気軽に運動・スポーツを楽しみ、健康的なライフスタイルを実現するために、誰もが運動・スポーツに参加する機会を創出し、スポーツ実施率を向上させるとともに、地域のスポーツ活動の活性化を図ります。

〈現状・課題〉

スポーツを行うための施設や機会が不足していることや、20代から50代までの働く世代・子育て世代の人々がスポーツの実施率が低い傾向にあり、特に、女性のスポーツ実施率が低いことが大きな課題となっています。

誰もが、自分に合った運動・スポーツを見つけ、楽しみながらスポーツに参加し、継続してできる環境整備が必要となります。

2000年頃より、日本でも新たなスポーツ活動と捉えられるeスポーツは、世界的な盛り上がりを見せており、競技人口も増加し、その認知度も高まりつつあり、普及促進が必要です。

① 女性のスポーツ実施率向上

女性がスポーツに興味を持つきっかけとなるような女性向けのスポーツイベントや教室を開催するなど、女性がスポーツを行いやすい環境整備を進めることで、女性のスポーツ実施率の向上を図ります。

指標

成人女性のスポーツ実施率

40.9% ⇒

70% (令和15年度)

65% (令和10年度)

図3 週に1回以上のスポーツ実施頻度〈成人(10代を除く)〉(再掲 P6)

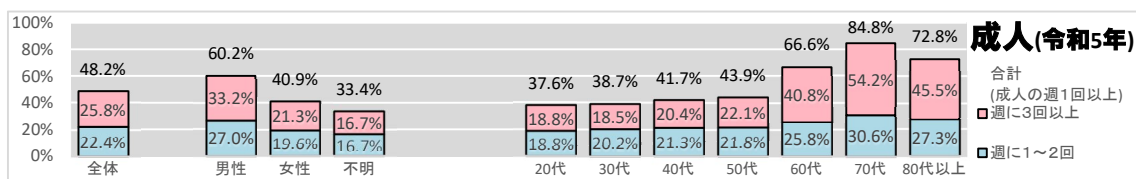
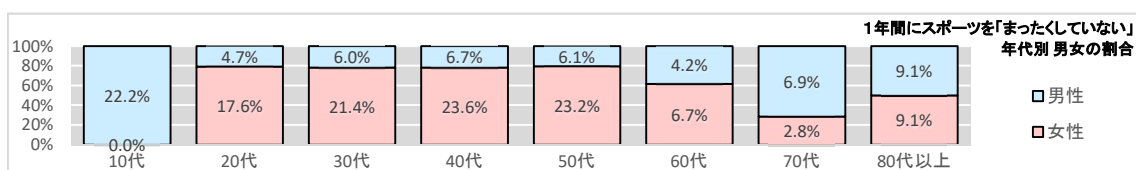


図32 この1年間にスポーツを「まったくしていない」男女の割合



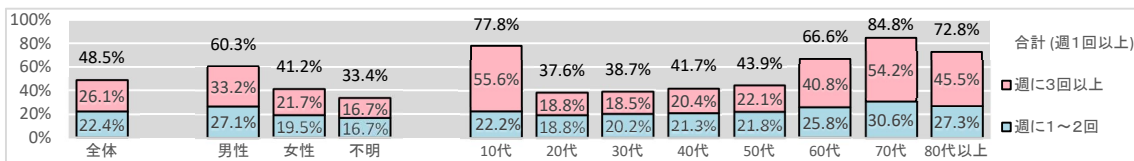
② 子どもたちのスポーツ機会創出

多様なスポーツ種目が体験できるイベントや親子で楽しむ運動プログラムの提供などを通じて、子どもたちのスポーツを楽しむ機会を増やし、スポーツ実施率向上を図ります。

また、学校や地域と連携し実情に応じて、子どもたちが地域で主体的にスポーツ活動しやすい環境整備に努めます。

指標	10代の運動・スポーツ活動 (体育授業を除く)の週1回以上の実施率	77.8% ⇒	5ポイント増
-----------	--------------------------------------	----------------	---------------

図33 週に1回以上のスポーツ実施頻度（10代を含む）



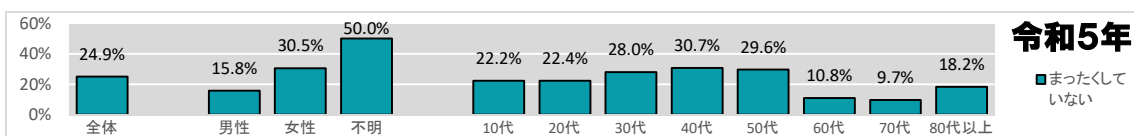
③ 地域に根差した住民主体のスポーツ活動の推進

「学業や仕事（家事・育児）が忙しくて時間がない」、「疲れてやる気がない」など、スポーツに関心はあっても、時間と余裕がなくできない市民が幅広い世代で存在します。

こうした市民が多様なスポーツを気軽に楽しむことができるよう、地域で行われる新たな種目のスポーツ教室やスポーツレクリエーション祭などの多世代参加型のイベントを普及・充実させていくことで、スポーツをしていない市民への働きかけを強化し、地域のスポーツ活動の活性化を図ります。

指標	運動・スポーツ活動(体育授業を除く)をまったくしていない割合	24.9% ⇒	20%以下
-----------	--------------------------------	----------------	--------------

図34 この1年間にスポーツを「まったくしていない」



④ eスポーツの普及促進

近年、盛り上がりを見せているeスポーツの普及・促進に向けて、国や他市の動向について調査・研究を進め、eスポーツの大会やイベントの支援を検討します。

(2) スポーツ指導者の養成と総合型地域スポーツクラブの育成

【施策目標】

地域でのスポーツ推進を担うスポーツ指導者の養成やスポーツ指導者とスポーツを楽しみたい市民をマッチングする取組を進めるとともに、総合型地域スポーツクラブの設立を支援するなど、身近な地域でスポーツに親しむ環境の充実に図ります。

〈現状・課題〉

指導する側からは「指導する機会がない」、スポーツする側からは「指導者がいない」という意見が挙がっており、双方のマッチングがうまくできていない現状があります。

スポーツ指導者の養成においては、資格取得のための時間的な制約の解消や、より実践的な指導力の向上などに取り組む必要があります。

スポーツ指導者の養成と地域スポーツに取り組むスポーツクラブなどへの継続的な支援を行うことで、より多くの人々がスポーツを親しむことのできる環境が整えられることが期待されます。

① スポーツ指導員養成及びマッチング

地域におけるスポーツイベントの企画運営などを担う高知市スポーツ指導員を養成するため、高知市スポーツ指導員養成教室を引き続き開催します。

地区体育会などと連携し、女性や若い世代のスポーツ指導員の養成・確保に努めます。

また、スポーツ指導員の資格を有しているにも関わらず、地域のスポーツ活動に関わっていないスポーツ指導員とスポーツを楽しみたい市民をマッチングする取組を行います。

指
標

高知市スポーツ指導員養成教室

認定者数 75名 ⇒ 100名以上
(過去10年) (計画期間)

② 総合型地域スポーツクラブの育成

身近な地域で、子どもから高齢者まで、多様なスポーツに親しむことができ、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる総合型地域スポーツクラブの育成に努めます。

指
標

現在活動している
総合型地域スポーツクラブ数

4クラブ ⇒ 8クラブ

(3) DXの推進, SNSなどを活用した広報

【施策目標】

デジタル技術を活用した広報をすることによって、すべての世代に情報が伝わる環境を整備します。

〈現状・課題〉

地域の運動・スポーツイベントへの参加をしなかった理由は「知らなかった」が多く、特に若い世代の方への働きかけが課題です。

スポーツ施設の予約オンライン化など利便性を向上させるとともに、イベント開催情報などのスポーツに関する情報が一元化されている必要があります。

① 情報伝達の手段の充実

SNSなどのソーシャルメディアを活用し、効果的な情報提供・発信を行い、市民のスポーツへの関心や主体的な取組を促進します。

また、すべての市民がインターネットを利用できるわけではないため、従来からの広報誌、ポスター、マスメディア（新聞、テレビ、ラジオ）など、市民のライフスタイルに応じた手段を用いて「伝わる」情報提供の充実を図ります。

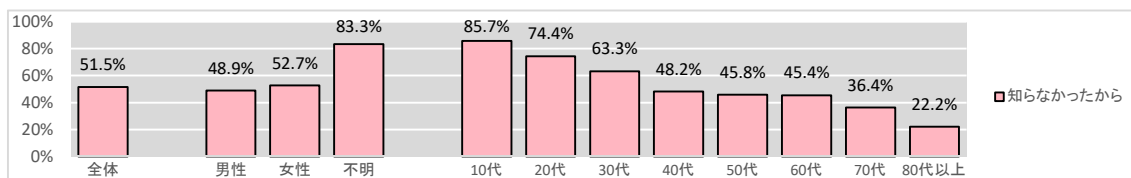
指標

「高知市民の健康・スポーツに関する意識調査」の地域のスポーツ行事のうち「知らなかったから」と答えた方の割合

51.5% ⇒

40%以下

図35 地域の運動・スポーツ行事に参加したことの理由「知らなかったから」



② 情報の集約化

スポーツ施設の利便性向上のため、施設予約や利用に関することからスポーツ教室・イベント、健康に関することなど、スポーツに関連する情報の充実と分散している関連情報の一元化を推進します。

指標

体育施設予約システムの改修と情報一元化

令和8年度までに
システムの導入

2 スポーツで「あつまり、ともに、つながる」

(1) スポーツによる健康増進

【施策目標】

さまざまな世代のニーズに応じたスポーツ教室や個々の状況に応じて気軽に取り組めるスポーツイベントを展開することで、運動やスポーツを通じた健康増進を推進します。

〈現状・課題〉

市民の「健康・体力づくり」の意識は高い状況ですが、スポーツを行う機会が不足していることや、20代から50代までの働く世代・子育て世代のスポーツ実施率が低い状況にあります。

ライフスタイルに応じてスポーツに取り組める環境整備が必要です。

① 生涯スポーツを通じた健康増進

適度な運動を行うことは、体力の維持・増進、生活習慣病の発症リスク低下など、さまざまな効果が期待できます。睡眠や食事も健康を維持するために欠かせない要素です。

健康をテーマにした運動・スポーツイベントを他部局及び民間の企業や団体と連携して企画し、参加することによりスポーツに取り組む動機付けが高まる機会を創出し、体験型教室や食事に関する相談をする場を設け、自身の体力や健康状態を知り、スポーツに取り組むきっかけづくりや運動習慣の定着化を図り、健康増進を目指します。

指標

健康を意識した運動やスポーツをする
きっかけとなるイベントの企画・開催

2回/年

② 高齢者スポーツの推進

スポーツ施設管理者及び民間の企業や団体との連携による高齢者向けのスポーツ教室やスポーツイベントを開催するほか、身近な場所でスポーツに親しめる環境整備に努め、身体に負担の少ないスポーツを通じた高齢者の健康づくり、生きがいくくり、健康寿命の延伸を推進します。

(2) スポーツを通じた国際交流と地域活性化

【施策目標】

ホストタウンとしての国際交流を契機とした市民のスポーツへの関心の高まりが、「スポーツ・レガシー」として定着するよう取り組み、スポーツ振興や地域活性化を推進します。

〈現状・課題〉

ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック競技大会などにおいて、ホストタウンなどの取組により、海外選手団の事前合宿受け入れを実施してきましたが、まだまだ海外から本市を訪れる国が少ないのが現状です。

ホストタウンなどの取組により友好関係を構築した国々と、スポーツを通じた交流を促進します。

① 海外の国や地域とのスポーツ交流の実施（ホストタウンなど）

海外の選手や指導者との交流を通して競技力向上や異文化理解などの促進を図るため、高知県や各競技団体などと連携し、ホストタウンなどの取組によりスポーツを通じた相互交流を実施します。

② トップアスリートとの交流による地域活性

プロ野球やJリーグなどのキャンプ誘致などスポーツツーリズムを通じ、トップアスリートによるスポーツ交流教室を開催し、地域の特色のあるイベントなどで選手や地域住民とが交流することによるスポーツ機運醸成および地域・経済の活性化を図ります。

指標

トップアスリートによるスポーツ交流教室 **2教室/年** ⇒ **5教室/年**

(3) 施設の整備と有効活用

【施策目標】

スポーツ施設の維持・管理、新設整備、老朽化した施設の改修を計画的に行います。

また、地域のスポーツイベントや大会の開催にも施設を有効活用し、地域のスポーツ文化の発展や地域活性化に貢献していきます。

〈現状・課題〉

本市のスポーツ施設は、老朽化が進んでいるものが多く、定期的なメンテナンスや改修工事の必要性が増しており、新たな施設整備も必要となっています。また、近年の気候変動に伴い、より快適な環境整備が求められています。

高知市教育委員会が、学校教育上支障のない範囲で、高知市立学校の体育施設を地域住民の体育又はスポーツの利用に供しており、現在58校の学校が施設を開放しています。

施設の有効活用に関しては、スポーツに参加しやすい環境を整えるためにも、地域のスポーツ団体や学校との連携が重要となり、施設の利用時間帯や利用料金の調整、施設の共同利用など、柔軟な協力体制を構築することが必要です。

東京2020オリンピック競技大会で注目され、若者に人気のあるスケートボードやBMXなどの新しいジャンルのスポーツは、愛好者も増加傾向にあり、本市においてもスケートパークの整備ニーズが高まっています。

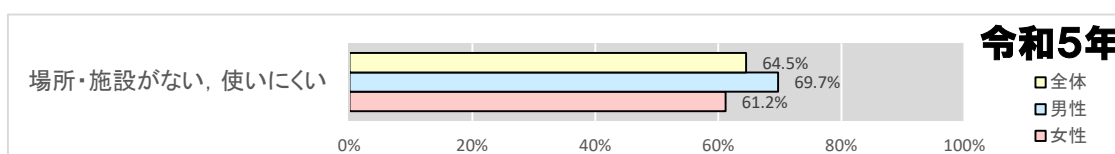
① 既存スポーツ施設の適切な維持・管理

施設利用者が安全安心、快適に利用できるように、手軽で身近な場所にあるジョギングコースなどを含むスポーツ施設の適正な運営管理を行うとともに、老朽化した施設の長寿命化を含めた、計画的な改修・再整備に努めます。

また、改修・修繕にあたっては、障害者や高齢者をはじめ、だれもが利用できる施設となるよう、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れたものとします。

指標	「高知市民の健康・スポーツに関する意識調査」の不便のうち「場所・施設がない、使いにくい」と答えた方の割合	64.5% ⇒	50%以下
-----------	--	---------	--------------

図36 運動・スポーツを実施する際に不便「場所・施設がない、使いにくい」



② 新施設の整備

スケートボードやBMXなど、多様なスポーツに親しむことができるよう対応した施設整備について、市民や関係競技団体のニーズや要望などを勘案しながら検討するとともに、施設整備後の競技の普及や施設の活用について計画の策定を検討していきます。

指標	スケートボードやBMXを楽しむことができる施設を整備する。
-----------	-------------------------------

③ 学校体育施設の有効活用

地域の方が身近な体育施設で継続してスポーツ活動が実施できるよう、学校、高知市教育委員会、学校体育施設開放事業運営委員会と連携し、学校体育施設の有効活用を進めるとともに、利用者が安全・快適に活動できるよう、施設の維持・管理に努めます。

3 スポーツに「誰もがアクセスできる」

(1) 地元クラブチームなどへの支援と協力・連携

【施策目標】

地元クラブチームなどは、地域のスポーツ文化を支え、若者の育成や地域の活性化にも大きく貢献しています。

地元クラブチームなどを、市民がより愛着を持って応援できるよう、活動を支援していきます。

〈現状・課題〉

令和5年度のサッカー天皇杯でJ1チームを相手に快進撃し、かごしま国体では優勝を果たした高知ユナイテッドスポーツクラブや、日本独立リーグ・グランドチャンピオンシップで優勝経験もある高知ファイティングドッグスの活躍は、県内外で高知の知名度が上昇しただけでなく、地元根差した活動の継続で、地域の活性化にも貢献しています。

また、市内で活動する女子硬式野球チームと連携した取組を続けてきた結果、令和5年11月19日、本市は全日本女子野球連盟から女子野球タウンとしての認定を受けました。

地元クラブチームなどへの支援や協力・連携はさまざまな形で行われていますが、施設の不足に対しては、地域の公共施設や学校の施設を活用するなど、柔軟な協力体制を構築することが必要です。

① 地元クラブチームなどへの支援

地元クラブチームの試合を観戦することによって得られる地域への愛着や感動をとおして、市民のスポーツへの機運を高めるとともに、ホームゲームでのイベントなど地元スポーツ関係者やファンとも協力し、観客増につなげるための活動を支援します。

② 女子野球タウンの推進

全日本女子野球連盟や地元競技団体などと連携・協力して、地域活性化を目指す「女子野球タウン」として、女子野球の普及振興を支援していきます。

(2) トップアスリートとの交流の機会の創出

【施策目標】

プロ野球キャンプ・合宿などの誘致に取り組み、トップアスリートとの交流を通じて、若者や地域のスポーツ団体との交流の機会を創出します。

〈現状・課題〉

地方都市である本市は、大都市と比較すると全国レベルでの競技大会やプロスポーツの試合が少なく、若者がトップアスリートに触れる機会は限られていることが課題です。

本市では現在、12の企業との包括連携協定を結んでおり、協定に基づき地域のスポーツイベントや大会にトップアスリートを招待することや、トップアスリートを本市に招聘した際には、地域のスポーツ団体や学校との交流イベントを企画することにより、若者や地域のスポーツ団体との交流の機会を創出する取組が望まれています。

① 包括連携協定によるスポーツイベントの実施

包括連携協定に基づき、トップアスリートによるスポーツイベントを実施する環境が整えられてきましたが、今後も企業との連携をより強め、多くのトップアスリートとの交流の機会の創出に取り組みます。

指標	包括連携協定などによる スポーツイベントの実施	イベント開催数 2回/年 ⇒	5回/年を目指す
-----------	----------------------------	--------------------------	-----------------

② キャンプ・合宿などの誘致

トップアスリートのプレーを間近で観戦することで、スポーツへ興味を持つ機会が創出され、競技人口の拡大も期待できます。

また、地元競技団体との技術交流により、競技力の向上も期待されることから、国内外のプロチームや社会人・大学チームのキャンプ・合宿などの誘致に、高知県や高知県観光コンベンション協会、高知市観光協会などと連携して取り組みます。

③ 海外の国や地域とのスポーツ交流の実施（ホストタウンなど）（再掲P41）

海外の選手や指導者との交流を通して競技力向上や異文化理解などの促進を図るため、高知県や各競技団体などと連携し、ホストタウンなどの取組によりスポーツを通じた相互交流を実施します。

④ トップアスリートとの交流による地域活性（再掲P41）

プロ野球やJリーグなどのキャンプ誘致などスポーツツーリズムを通じ、トップアスリートによるスポーツ交流教室を開催し、地域の特色のあるイベントなどで選手や地域住民とが交流することによるスポーツ機運醸成および地域・経済の活性化を図ります。

指標	トップアスリートによるスポーツ交流教室	2教室/年 ⇒	5教室/年
-----------	---------------------	----------------	--------------

(3) 障害者スポーツの推進

【施策目標】

障害者が、生涯にわたってスポーツ活動ができるための環境を整備するとともに、指導者や支援者（ボランティア）の養成を行い、障害者のスポーツ参加の拡大を図ります。

〈現状・課題〉

現在、障害者スポーツは世界的に注目されており、多くの国際大会も開催されています。

本市では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に参加した地元選手の活躍などもあり、障害者スポーツへの関心が高くなっていますが、競技活動をしている選手がまだ少なく、また、障害者スポーツに関わる指導者などの養成も課題です。

障害者が気軽にスポーツに触れることのできる機会や、市民が障害者スポーツに関わる機会の創出が必要です。

① スポーツに親しむきっかけづくり

障害者やその家族などを対象にした夏あそびカヌー体験教室の共催など、高知県立障害者スポーツセンターと連携して、スポーツに親しむ機会を設けることで、新たなスポーツ活動につながるきっかけをつくります。

指標

障害者スポーツ体験教室の増設

1教室(全5回) ⇒ 2教室

② 障害者スポーツの指導者や支援者（ボランティア）の養成

障害者のスポーツ指導を適切に行うことができるよう研修を通じて指導者や支援者の養成に努めるとともに、指導者や支援者、関係機関、団体と連携して障害者がスポーツに親しむ環境づくりに努めます。

指標

高知市スポーツ指導員養成教室

障害者スポーツ
1プログラム ⇒ 障害者スポーツの
プログラムを増設

資料編

1 地区体育会一覧

NO	地区名	人口	会員数	クラブ数	クラブ員数	指導者数
1	は り ま や 橋	8,236	-	10	152	23
2	第 四	4,969	102	3	53	15
3	第 六	3,744	-	-	-	-
4	江 ノ 口	6,604	-	8	170	21
5	江 陽 (ファミリークラブ江陽)	10,535	192	9	210	34
6	旭	11,416	-	12	195	12
7	旭 東 (旭東スポーツクラブ)	9,599	209	12	131	45
8	潮 江	9,004	132	8	113	19
9	潮 江 東	7,870	-	4	47	18
10	小 高 坂	8,776	302	15	283	19
11	秦	12,589	245	13	220	25
12	初 月	13,016	227	11	197	16
13	横 浜	7,938	-	9	191	52
14	長 浜	10,478	191	16	191	8
15	浦 戸	821	79	5	79	4
16	三 里	5,688	223	15	180	3
17	五 台 山	2,435	-	7	89	9
18	高 須	12,312	230	10	224	6
19	布 師 田 (ぬのしだピカッとクラブ)	1,449	-	6	84	22
20	一 宮	9,588	212	8	181	28
21	久 重	1,079	40	3	29	11
22	朝 倉	11,637	-	1	9	-
23	鴨 田	16,014	-	-	-	-
24	一 ツ 橋	7,002	-	12	198	32
25	介 良	7,414	270	13	226	19
26	大 津	10,411	290	14	245	33
27	朝 倉 第 二	15,835	870	20	336	52
28	潮 江 南	7,163	155	11	116	19
29	神 田	13,552	243	12	203	18
30	泉 野	11,570	-	10	125	3
31	一 宮 東	5,906	248	10	228	20
32	十 津	5,449	-	8	112	27
33	横 浜 新 町	7,158	358	11	261	66
34	横 内	9,014	7,000	8	164	5
35	介 良 潮 見 台	5,345	168	9	144	14
36	鏡	1,205	97	4	41	4
37	土 佐 山	917	-	-	-	-
38	春 野 (はるのGENKIクラブ)	14,281	179	9	159	24
	合 計	308,019	12,262	336	5,586	726
	小学校区ごとに 38体育会設置					

※ 令和4年度高知市体育会登録カードを元に作成

※ 人口は令和2年度国勢調査時の人数

※ 昭和と行川地区は高知市体育会登録なし

※ は総合型地域スポーツクラブ

○ 地区体育会

地区体育会とは、スポーツやレクリエーションを通じて地域住民の親睦と健康保持・増進を図るとともに、健全で明るいまちづくりに寄与することを目的として作られた組織です。

町内会などの団体の連合体として組織される体育会があれば、個人で加盟する体育会もあり、更には住民のほか、地区内に勤務する者も会員に含む体育会もあるなど、その構成はさまざまですが、小学校区を単位としているところは同じです。

地区体育会では、区民運動会や各種スポーツ大会を主催するほか、夏祭りや草刈り、一斉清掃といった地域行事にも積極的に参画するなど、他の公共的団体と連携し、地域の発展に貢献しています。

現在 38 団体が設立されており、いずれも連合組織である高知市体育会に加盟しています。

○ 総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブは、従前の企業や学校、スポーツ団体、行政が担ってきた地域スポーツ振興の仕組みを見直し、地域住民が自主的・主体的に運営し、身近な地域で人々がスポーツに親しむことができる新しいタイプのスポーツクラブです。

複数の種目が用意され、子ども・高齢者・障害者まで、そして初心者からトップレベルまで、それぞれの年齢・志向・レベルに応じて参加できるという特徴があります。

スポーツを通じた健康維持や人間関係の構築にとどまらず、地域の活性化や地域コミュニティの核としての役割が期待されており、また、拠点となる地区住民だけでなく、近隣地区から広域にわたって幅広く会員を集めていることも特徴の1つです。

現在、市内に5つの総合型地域スポーツクラブがあり、うち4団体が高知市体育会に加盟しており、高知県立障害者スポーツセンターを拠点に活動している総合型スポーツクラブが1団体あります。

○ スポーツ推進委員

スポーツ推進委員は、スポーツ基本法第32条に基づき、市町村におけるスポーツ推進のため、規則の定めるところにより、スポーツ推進のための事業の実施に係る連絡調整並びに住民に対するスポーツ実技の指導その他スポーツに関する指導及び助言を行うものです。

事業の企画・立案や運営のほか、地域住民・行政・スポーツ団体との円滑な連携の調整などを行い、地域スポーツのコーディネーターとしての役割が期待されています。

また、高知市スポーツ推進委員は、市長から委嘱された非常勤特別職の職員です。

小学校区ごとに2名のスポーツ指導員に委嘱しており、現在67名のスポーツ推進委員が活動しています。

○ 高知市スポーツ指導員

本市のスポーツの振興を図るため、高知市スポーツ推進委員を補佐するものとして、高知市スポーツ指導員の認定を独自事業として行っています。

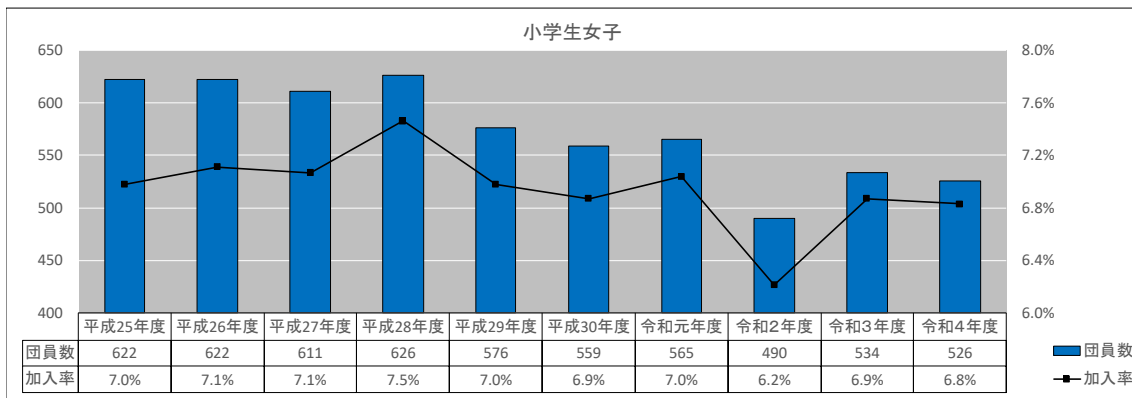
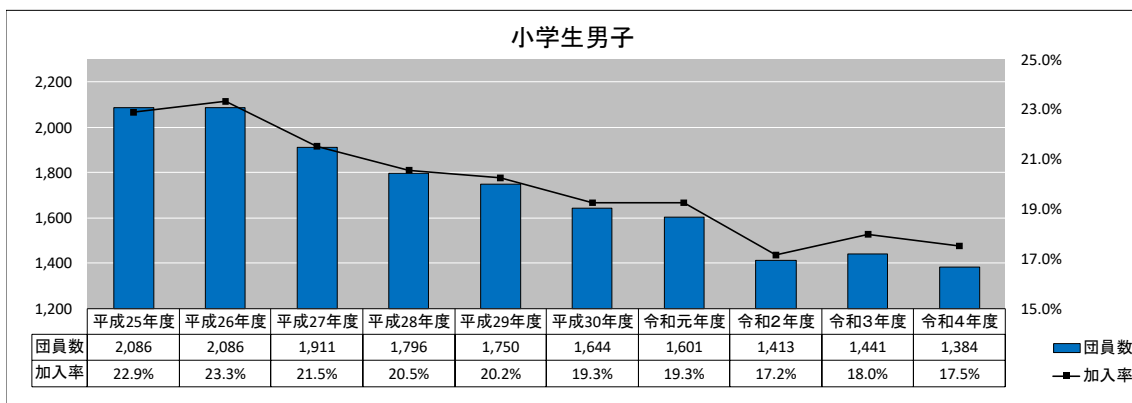
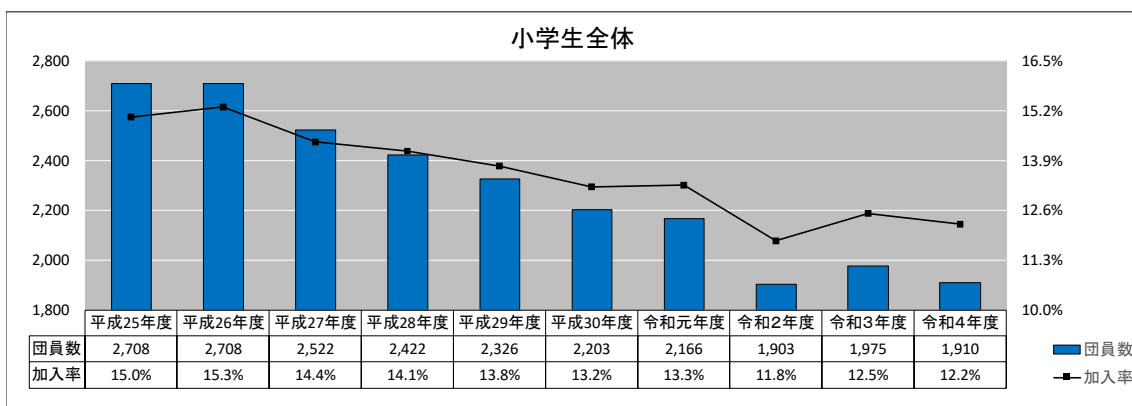
地区体育会からの推薦を受け、高知市スポーツ指導員養成教室を修了したものにその資格が与えられます。

スポーツ指導員には地域スポーツの指導者としての役割のほか、各種スポーツ事業への参画および協力、また高知市スポーツ推進委員としての活躍が期待されています。

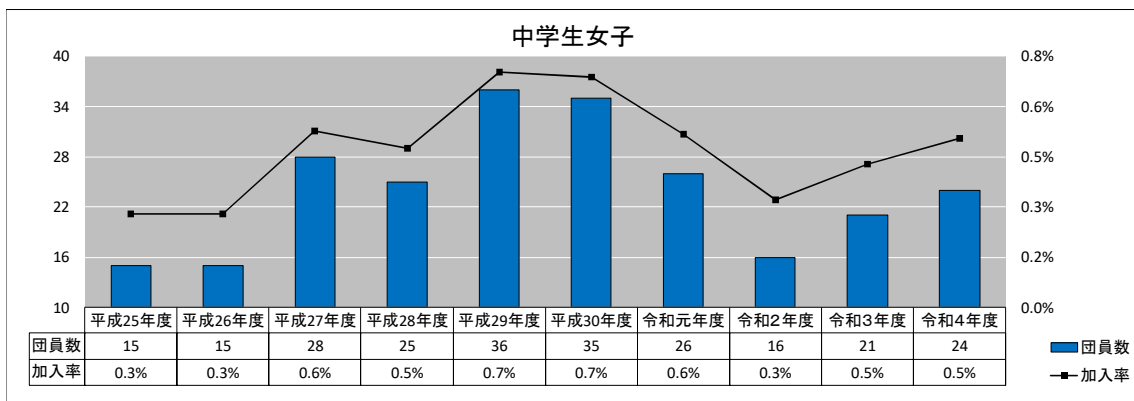
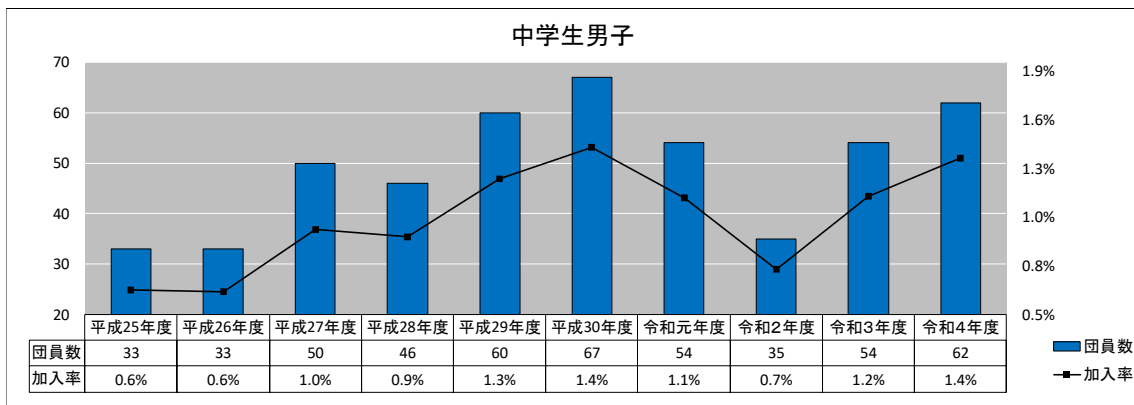
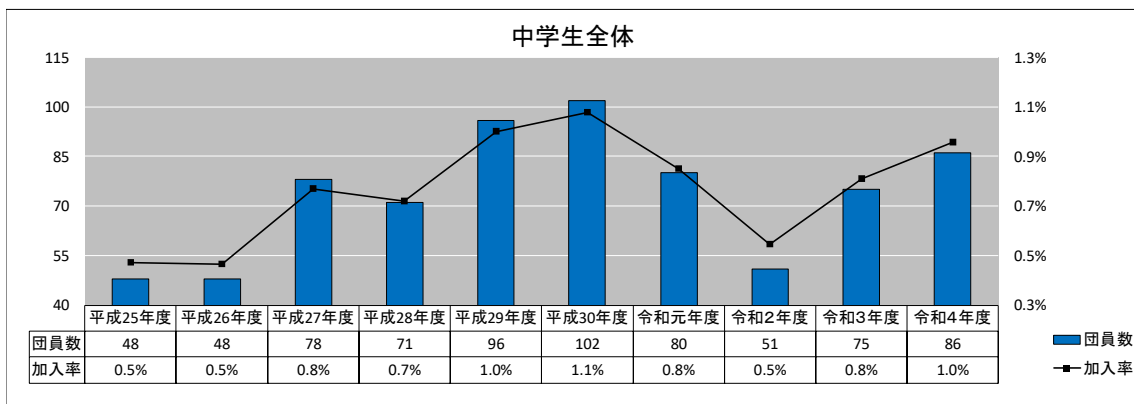
2 高知市スポーツ少年団加入数・加入率推移

高知市スポーツ少年団加入数・加入率

		平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
		団員数	児童生徒数	加入率	団員数	児童生徒数	加入率	団員数	児童生徒数	加入率	団員数	児童生徒数	加入率	団員数	児童生徒数	加入率
全体	小学生	2,708	18,028	15.0%	2,708	17,700	15.3%	2,522	17,531	14.4%	2,422	17,131	14.1%	2,326	16,902	13.8%
	中学生	48	10,208	0.5%	48	10,304	0.5%	78	10,132	0.8%	71	9,867	0.7%	96	9,596	1.0%
	高校生以上	7			7			3			2			3		
	計	2,763			2,763			2,603			2,495			2,425		
男	小学生	2,086	9,117	22.9%	2,086	8,953	23.3%	1,911	8,885	21.5%	1,796	8,743	20.5%	1,750	8,650	20.2%
	中学生	33	5,186	0.6%	33	5,277	0.6%	50	5,142	1.0%	46	4,945	0.9%	60	4,787	1.3%
	高校生以上	2			2			1			0			1		
	計	2,121			2,121			1,962			1,842			1,811		
女	小学生	622	8,911	7.0%	622	8,747	7.1%	611	8,646	7.1%	626	8,388	7.5%	576	8,252	7.0%
	中学生	15	5,022	0.3%	15	5,027	0.3%	28	4,990	0.6%	25	4,922	0.5%	36	4,809	0.7%
	高校生以上	5			5			2			2			2		
	計	642			642			641			653			614		



		平成30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度		
		団員数	児童生徒数	加入率	団員数	児童生徒数	加入率	団員数	児童生徒数	加入率	団員数	児童生徒数	加入率	団員数	児童生徒数	加入率
全体	小学生	2,203	16,670	13.2%	2,166	16,340	13.3%	1,903	16,124	11.8%	1,975	15,789	12.5%	1,910	15,605	12.2%
	中学生	102	9,461	1.1%	80	9,431	0.8%	51	9,331	0.5%	75	9,256	0.8%	86	8,991	1.0%
	高校生以上	4			6			9			16			10		
	計	2,309			2,252			1,963			2,066			2,006		
男	小学生	1,644	8,535	19.3%	1,601	8,312	19.3%	1,413	8,239	17.2%	1,441	8,016	18.0%	1,384	7,904	17.5%
	中学生	67	4,696	1.4%	54	4,713	1.1%	35	4,671	0.7%	54	4,665	1.2%	62	4,535	1.4%
	高校生以上	0			2			2			6			7		
	計	1,711			1,657			1,450			1,501			1,453		
女	小学生	559	8,135	6.9%	565	8,028	7.0%	490	7,885	6.2%	534	7,773	6.9%	526	7,701	6.8%
	中学生	35	4,765	0.7%	26	4,718	0.6%	16	4,660	0.3%	21	4,591	0.5%	24	4,456	0.5%
	高校生以上	4			4			7			10			3		
	計	598			595			513			565			553		



3 市内スポーツ施設一覧

本市には、高知市総合運動場、高知市東部総合運動場、針木運動公園、城ノ平運動公園、土佐山運動広場、春野グラウンド、土佐山西川複合集会所などのスポーツ施設があります。

高知市総合運動場



高知市東部総合運動場



針木運動公園



城ノ平運動公園



土佐山運動広場



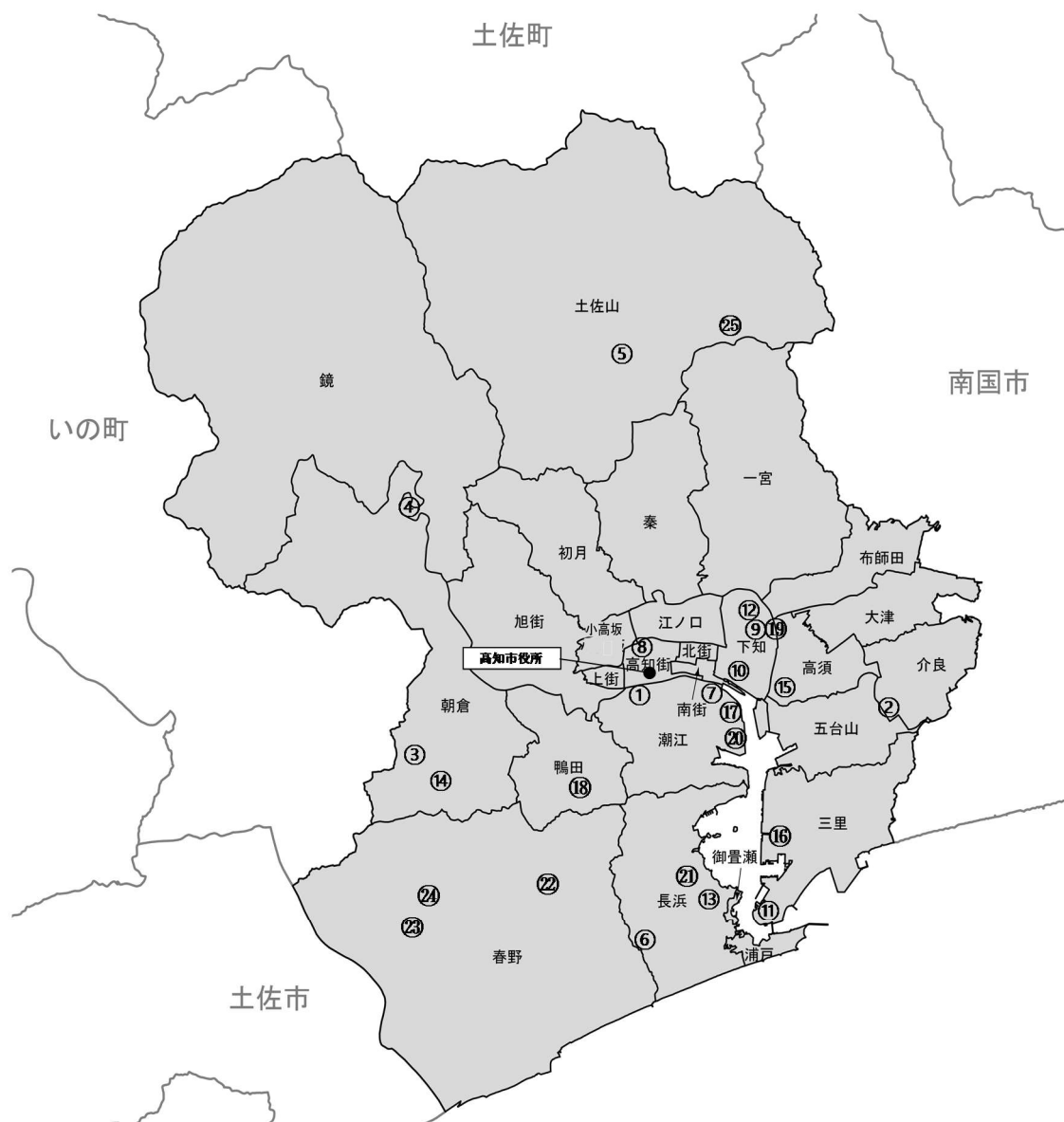
土佐山西川複合集会所



春野グラウンド



○ 高知市のスポーツ施設及び公園施設所在地



- ① 総合運動場
- ② 東部総合運動場
- ③ 針木運動公園
- ④ 城ノ平運動公園
- ⑤ 土佐山運動広場
- ⑥ ヨネッツこうち
- ⑦ 青年センター
- ⑧ 城西公園

- ⑨ 丸池公園
- ⑩ 青柳公園
- ⑪ 種崎公園
- ⑫ 南久保公園
- ⑬ 瀬戸公園
- ⑭ 大谷公園
- ⑮ 高須公園
- ⑯ 仁井田公園

- ⑰ 荻公園
- ⑱ 神田公園
- ⑲ 下知水再生センター
- ⑳ 潮江水再生センター
- ㉑ 瀬戸水再生センター
- ㉒ 春野グラウンド
- ㉓ 春野弘岡中福利厚生プール
- ㉔ 春野ゲートボール場
- ㉕ 土佐山西川複合集会所

※下線の施設はスポーツ振興課所管

(1) 総合運動場

名 称	完成年月	面積 ㎡	競技面積 ㎡	施 設 概 要 収 容 人 員	利 用 人 数
					令和4年度
①相撲場	昭和15年10月 (平成13年3月 全面改修)	788	300	1 F (練習土俵2面, 合宿所) 2 F (本土表1面, 桝席500 席) 収容人数 500人	795
②陸上競技場 (りょうま スタジアム)	昭和25年9月 (平成12年3月 全面改修)	39,935	22,638	第2種公認陸上競技場(全天候 400mトラック×8コース), 自転車走路(500mバンク)併 設 宿泊棟(30室) 駐車場(車632台, 自転車バイ ク566台, トレーニング走路) 収容人数 9,187人	宿泊棟 29,767 4,673 自転車 878 計 35,318
③野球場	昭和26年9月 (平成12年 改修・拡張)	27,000	13,420	両翼96m, センター121m 収容人数 7,000人 夜間照明付	17,763
④テニスコート	平成2年4月 (平成12年 改修)	6,500	4,427	砂入り人工芝 7面 夜間照明付	54,588
⑤補助グラウンド	平成2年11月	8,876	8,655	ソフトボール 2面 夜間照明付	21,990
⑥多目的ドーム (よさこいドーム)	平成12年12月	3,525	2,860	ロングパイル人工芝 野球(内野練習) 1面 ソフトボール 1面 フットサル・ハンドボール 2面	37,986
⑦スケートボード場	平成13年3月	280		スケートボード	
⑧総合体育館	平成3年12月	9,326	3,964	温水プール 雨天練習場 メインアリーナ バレーボール 2面 バスケットボール 2面 バドミントン 8面 サブアリーナ バレーボール 1面 バスケットボール 1面 バドミントン 3面 プレイルーム トレーニング室 ランニング走路 会議室 シャワー室	56,159 4,936 49,108 35,500 12,702 18,886 268 10,509 846 計 188,914
その他(緑地他)		13,770		駐車場・緑地公園	
計		110,000			357,354

(2) 東部総合運動場

名 称	完成年月	面積 ㎡	競技面積 ㎡	施 設 概 要 収 容 人 員	利 用 人 数
					令和4年度
①多目的グラウンド	昭和61年7月	14,000		軟式野球 2面 サッカー 2面 ソフトボール 4面	12,894
②体育センター	昭和62年4月	1,100		バレーボール 2面 バドミントン 6面 バスケットボール 1面	33,887
③野球場	平成2年8月	20,200		両翼94m, センター120m 収容人数 8,200人	15,056
④打撃練習場	平成10年10月	1,862		投球練習場 8面 打撃練習場 6面	4,929 10,845
⑤テニスコート	平成10年11月 (令和4年3月 全面改修)	18,330		砂入り人工芝 16面 うち夜間照明付 8面 収容人数 1,300人	43,283
⑥屋内競技場 (くろしお アリーナ)	平成13年5月	16,517	10,650	25m温水プール(通年) 9コース～水深1.4m 3コース～可動床 観客席252席	プール 62,817
				50mプール(冬季:体育館 仕様 アリーナ面積2,500㎡) 10コース水深最大2m 全面可動床 観客席2,000席 トレーニング室 ランニング走路 会議室	アリーナ 19,359 18,546 2,880 4,956 計 108,558
⑦多目的ドーム (しらすぎドーム)	平成29年9月	4,378	3,600	ロングパイル人工芝 野球・サッカー練習用 ソフトボール 1面 フットサル・ハンドボール 2面 会議室	ドーム 49,401 会議室 208
その他(緑地他)		47,306		駐車場・緑地公園	
計		123,693			279,061

(3) 針木運動公園

名 称	完成年月日	面積 ㎡	競技面積 ㎡	施 設 概 要	利 用 人 数
					令和4年度
針木運動公園	昭和56年4月	11,000	7,945 3,040	ソフトボール 2面 テニスコート 5面 (ハードコート)	3,509 3,758
計		11,000	10,985		7,267

(4) 城ノ平運動公園

名 称	完成年月日	面積 ㎡	競技面積 ㎡	施 設 概 要	利 用 人 数
					令和4年度
城ノ平運動公園	平成13年8月 平成14年1月	14,173 (98,533)	5,534 8,639	ソフトボール専用球場 1面 両翼70m, センター75m 観覧席750人 (事務室・倉庫・更衣室・ シャワー有) 多目的広場 ソフトボール他 ※いずれも夜間照明有	4,647 7,553
計		14,173	14,173		12,200

(5) 土佐山運動広場

名 称	完成年月日	面積 ㎡	競技面積 ㎡	施 設 概 要	利 用 人 数
					令和4年度
土佐山運動広場	昭和61年	18,560	8,100	ソフトボール 2面 サッカー他 駐車場・トイレ・夜間照明有	1,583

(6) スポーツ振興課所管施設

名 称	完成年月	面積 ㎡	競技面積 ㎡	施 設 概 要	利 用 人 数
					令和4年度
西川複合集会所	昭和62年4月	1,417		バレーボール 1面 トイレ・小会議室	0
春野グラウンド	平成4年	8,835		ソフトボール 2面 (サッカー1面)	5,005
春野弘岡中 福利厚生プール	昭和63年	250		25mプール(6コース) 夏休み期間中開設	826
春野 ゲートボール場	昭和59年	2,100		ゲートボール場 4面	0

(7) その他の施設

① 青年センター

名 称	面積 ㎡	開設年月	備 考
アリーナ	584	昭和46年7月 平成18年3月	※高知市教育研究所との複合施設 (アリーナも複合施設に含まれる)
テニスコート	716	昭和46年7月 昭和62年7月改修 平成19年2月	
グラウンド	6,265	昭和46年7月	サッカー1面

② 公園内施設 (所管：みどり課)

公園名	公園区分	位 置	面積 ㎡	開設年月	競技面積 ㎡	用 途
城西	地区	丸ノ内1丁目5-2	44,000	昭和60年3月	6,400	80m×80m ソフトボール2面
丸池	近隣	丸池町9	28,350	昭和49年4月	8,100	90m×90m ソフトボール2面
青柳	〃	稲荷町1-3	12,891	昭和43年9月	4,900	70m×70m ソフトボール2面
種崎	〃	種崎777-3	9,481	昭和58年6月	3,625	55m×55m ソフトボール1面
南久保	街区	南久保128	3,647	昭和50年3月	3,300	60m×55m ソフトボール1面
瀬戸	近隣	横浜新町5丁目33	26,386	昭和63年4月	8,000	80m×80m ソフトボール1面・全天候テニス2面
大谷	〃	大谷公園町16-85	28,431	昭和59年3月	4,400	75m×75m ソフトボール1面
高須	〃	葛島3丁目11	20,000	昭和60年8月	5,600	75m×75m ソフトボール1面
仁井田	〃	仁井田2252-2	10,000	平成元年3月	4,400	65m×65m ソフトボール1面
萩	〃	新田町16	21,000	平成元年3月	8,100	90m×90m ソフトボール1面
神田	〃	神田1338-3	10,000	昭和60年8月	6,400	80m×80m ソフトボール1面

③ 公共施設付帯施設

施設の名称	所 管	面積 ㎡	開設年月	用 途
下知水再生センター	上下水道局 下水道施設管理課	107,700	平成17年4月	テニスコート2面
潮江水再生センター		49,000	昭和58年7月	ソフトボール1面 テニスコート2面 ゲートボール2面
瀬戸水再生センター		16,100	昭和62年8月	多目的コート1面 (テニス・バスケット)

4 高知市立学校体育施設開放一覧

No.	学 校 名	体育館	運動場
1	第 四	○	○
2	第 六	○	○
3	江 ノ 口	○	○
4	江 陽	○	○
5	旭	○	○
6	旭 東	○	○
7	潮 江	○	○
8	潮 江 東	○	○
9	小 高 坂	○	○
10	昭 和	○	○
11	秦	○	○
12	初 月	○	○
13	横 浜	○	○
14	長 浜	×	×
15	浦 戸	○	○
16	三 里	○	○
17	五 台 山	○	○
18	高 須	○	○
19	布 師 田	○	○
20	一 宮	○	○
21	久 重	○	○
22	朝 倉	○	○
23	鴨 田	○	○
24	一 ツ 橋	○	○
25	介 良	○	○
26	大 津	○	○
27	朝 倉 第 二	○	○
28	潮 江 南	○	○
29	神 田	○	○
30	泉 野	○	○
31	一 宮 東	○	○
32	十 津	○	○
33	横 浜 新 町	○	○
34	介 良 潮 見 台	○	○
35	横 内	○	○
36	鏡	○	○
37	春 野 東	○	○
38	春 野 西	○	○
39	はりまや橋	○	○
小 学 校		38	38

No.	学 校 名	体育館	運動場
1	城 北	○	○
2	城 西	○	○
3	愛 宕	○	○
4	城 東	○	○
5	潮 江	○	○
6	一 宮	○	○
7	青 柳	○	○
8	朝 倉	○	○
9	三 里	○	○
10	南 海	○	○
11	西 部	○	○
12	介 良	○	○
13	大 津	○	○
14	旭	○	○
15	横 浜	×	×
16	鏡	○	○
17	春 野	○	○
中 学 校		16	16

1	行 川 学 園	○	○
2	土 佐 山 学 舎	○	○
義 務 教 育 学 校		2	2

1	長 浜 (旧 御 豊 瀬 小)	○	×
17	旧 土 佐 山 中	○	×
旧 小 中 学 校		2	0

※ は屋外照明施設設置校 (16)

5 高知県立障害者スポーツセンターの障害者の利用状況

(人)

H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
13,498	13,920	12,564	12,778	15,173	17,675	17,725	18,528	18,434
H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
18,393	16,786	18,123	19,212	13,102	23,673	24,935	23,460	23,281
H26	H27	H28	H29	H30	H31・R元	R2	R3	R4
23,889	21,132	21,064	25,131	25,055	22,600	17,906	18,591	16,938

出典：第3期高知県スポーツ推進計画
※ 高知県立障害者スポーツセンター調べ

6 第5次高知市スポーツ推進計画策定経過

期 日	内 容
令和5年7月31日	≪第1回高知市スポーツ推進審議会≫ ・第5次高知市スポーツ推進計画について ・アンケート調査内容について
令和5年9月1日 ～9月22日	≪アンケート調査実施①≫ ・市民意識調査実施
令和5年9月8日 ～10月2日	≪アンケート調査実施②≫ ・スポーツ指導者対象調査実施
令和5年12月6日	≪第2回高知市スポーツ推進審議会≫ ・アンケート調査結果報告 ・第5次高知市スポーツ推進計画（案）について
令和6年1月	・第5次高知市スポーツ推進計画（案）最終調整
令和6年2月1日 ～2月29日	パブリック・コメントの実施
令和6年3月25日	≪第3回高知市スポーツ推進審議会≫ ・第5次高知市スポーツ推進計画（案）報告

7 高知市スポーツ推進審議会委員

氏 名	所 属 ・ 役 職 名	備 考
神家 一成	高知大学名誉教授	会長
永原 潤一	高知地区中学校体育連盟会長 高知市立潮江中学校長	副会長
大崎 博司	高知市小学校体育連盟会長 高知市立春野西小学校長	
大坪 豊寿	田中整形外科病院 管理栄養士	
岡部 律子	高知市スポーツ推進委員	
片岡 優世	一般社団法人Uープロジェクト 代表	
濱田 美穂	土佐女子中学高等学校 校長	
福本 志満	高知県立障害者スポーツセンター スポーツ指導員	
三谷 哲生	高知県文化生活スポーツ部スポーツ振興監兼スポーツ課長	
宮本 隆信	高知大学 教育学部 教授	
矢野 宏光	高知大学 教育学部 教授	
山崎 一城	高知新聞社 運動部長	
山崎 誠子	ミセススイミングクラブ高知 代表	
山本 英作	高知学園短期大学 教授	